

通勤時における新型インフルエンザ対策に関するアンケート調査の結果

— 関西地区における通勤者の意識と対応 —

平成 22 年 3 月

国土交通省 国土交通政策研究所

目 次

1. 調査概要	2
1. 1 調査目的	2
1. 2 調査項目の概要	3
1. 3 調査設計	4
1. 4 調査結果の概要	7
1. 5 回答者の基本属性	10
2. 本調査結果	15
2. 1 新型インフルエンザの感染防止策の認知度等	15
2. 2 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の対応	20
2. 3 強毒性新型インフルエンザが大流行する場合の対応	29
3 参考資料 インターネット調査画面イメージ	56

1. 調査概要

1. 1 調査目的

鉄道やバスなど公共交通機関において新型インフルエンザの感染拡大を防ぐためには、通勤時の混雑を緩和する必要があると考えられるが、そのためには、通勤者ひとりひとり、また、企業や団体の取り組みが、社会全体として積み重ねられる必要がある。

このアンケート調査は、通勤時の新型インフルエンザ感染防止策の検討に役立てていくため、昨春、新型インフルエンザ A/H1N1 の流行がいち早く確認された関西地区において、通勤者がどのように対応したか、強毒性新型インフルエンザの流行を想定した場合、通勤混雑に対してどのような意識をもっているかについて調査したものである。

1. 2 調査項目の概要

- 1 新型インフルエンザの感染防止策の認知**
- ◆ **Q1【新型インフルエンザ感染防止対策への認知】**
→「提示した感染防止策の1つでも以前から知っていた」と回答
 - **Q2【新型インフルエンザ感染防止対策の入手経路】**
- 2 新型インフルエンザA (H1N1) 発生時の対応**
- **Q3【インフルエンザ(A/H1N1)時の通勤時の対応】**
→「混雑を避けたことがあった」と回答
 - **Q4【インフルエンザ(A/H1N1)時の混雑回避手段】**
→「混雑を避けたことがあった」もしくは「出勤を控えた」と回答
 - **Q5【インフルエンザ(A/H1N1)時の出勤時の対応に関する勤務先からの指示】**
→「混雑を避けたことがあった」ことも「出勤を控えた」こともなかったと回答
 - **Q6【インフルエンザ(A/H1N1)時における混雑への認識】**
 - ◆ **Q7、Q8【インフルエンザ(A/H1N1)時における放送や掲示への認識】**
 - ◆ **Q9【インフルエンザ(A/H1N1)時の対応への認識】**
- 3 強毒性新型インフルエンザ発生時の対応**
- ◆ **Q10【強毒性新型インフルエンザの認知】**
 - ◆ **Q11【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の通勤に対する認識】**
 - ◆ **Q12【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の通勤行動】**
→「出勤する時間を変更したい」と回答
 - **Q13【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の通勤時間帯】**
→「通勤手段を自動車や自転車などに変更したい」と回答
 - **Q14【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の通勤手段】**
→「出勤を控えたい」と回答
 - **Q15【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の自宅待機・在宅勤務等】**
→(出勤する時間を変更したい)・(通勤手段を自動車や自転車などに変更したい)・(勤務先やその周辺に宿泊したい)・(出勤を控えたい)のいずれかを回答)
 - **Q16【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の通勤に対する勤務先の指示の影響】**
 - ◆ **Q17【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の公共交通機関運行への影響】**
 - ◆ **Q18【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の必要な取り組みに対する認識】**
 - ◆ **Q19、Q20、Q21、Q22【強毒性新型インフルエンザが発生した場合の移転・転居】**

1. 3 調査設計

本調査はインターネットアンケートにより実施した。

調査設計は以下の通り。

調査対象者	以下の 3 条件を満たす者 ①近畿圏（平成 17 年度大都市交通センサスの調査対象区域）（表 1）に居住している ②大阪市内を勤務先とする会社員、経営者・役員、公務員、自営・自由業である ③通常時の通勤手段として鉄道・バスを主に利用する
サンプル抽出の考え方	◆第一段階（スクリーニング調査） 居住地域別に大阪市内で従業している人の常住地人口分布（表 2）に合わせる。 居住地域区分：大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県 ※平成 17 年度大都市交通センサス（近畿圏）の調査対象区域に含まれる市町村（表 1）のみ対象 ◆第二段階（本調査） 大阪市内各地域の従業者数分布（表 3）に合わせる。 ※従業者数分布の地域区分はパーソントリップ調査のゾーン区分・平成 17 年度大都市交通センサス（近畿圏）の集計区分を参考に決定。
回収サンプル数	スクリーニング調査回収数：52874 サンプル 本調査回収数： 2000 サンプル
調査期間	スクリーニング調査：11 月 27 日～12 月 1 日 本調査：12 月 4 日～12 月 8 日

表3 大阪市内各地域の従業者数分布（平成18年事業所・企業統計調査より）

地域区分		従業者数（人）		割合（％）
都心3区	北区	1,069,971	414,738	48.3
	中央区		497,856	
	西区		157,377	
副都心2区	天王寺区	129,487	66,861	5.8
	浪速区		62,626	
大阪市西部	福島区	226,734	60,119	10.2
	大正区		32,499	
	港区		42,861	
	此花区		42,238	
	西淀川区		49,017	
大阪市北部	淀川区	198,774	145,632	9.0
	東淀川区		53,142	
大阪市東部	都島区	277,217	47,125	12.5
	旭区		30,949	
	城東区		57,297	
	鶴見区		39,692	
	東成区		43,161	
	生野区		58,993	
大阪市南部	東住吉区	314,712	46,093	14.2
	平野区		65,165	
	西成区		43,665	
	阿倍野区		49,960	
	住吉区		43,904	
	住之江区		65,925	
計		2,216,895	2,216,895	100.0

1. 4 調査結果の概要

結果のポイント

・昨春の新型インフルエンザ発生に対する対応について過剰反応だったと思うかどうかについては、意見(評価)が割れた。

・今般流行した新型インフルエンザと強毒性の新型インフルエンザとの違いについては、過半数の人が認識しているものの、「あまり知らない」、「知らない」とする回答も4割ある。

・強毒性の新型インフルエンザの流行を想定したとき3人に2人が公共交通の通勤混雑を避けたいと思っているが、大幅な時差通勤等通勤混雑緩和につながる行動をとるには、BCP(事業継続計画)に基づく等の勤務先からの指示や勧めが必要とする回答が8割に達した。

① 新型インフルエンザの感染防止策の認知度等

新型インフルエンザの感染防止策については、ワクチンの接種、咳エチケット等の各項目を「すべて知っている」と回答した人が全体の67%に達した。一方で、初めて知ったとする回答者が最も多いのは「対人距離の保持」であった。

感染防止策の認知媒体としては、最も多かった「テレビ」(78%)の次に、「会社からの情報」(47%)が多く挙げられており、新型インフルエンザの感染防止に取り組む上でマスメディアに加え、会社から社員への情報提供も有効な手段の一つとなることが示唆されている。また、テレビ以外のマスメディアである「インターネット」、「新聞」との回答も「会社からの情報」に次いで多かった。

② 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の対応

新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の通勤時の対応 (Q3、4)

公共交通機関での通勤時に行った感染防止策を調査した結果、「勤務先での手洗いやうがい」・「乗車中のマスクの着用」等の一般的な感染防止策を回答する人が多かった。通勤混雑の緩和につながる行動(「出勤時間の変更」・「出勤を控えた」・「帰宅時間の変更」・「通勤手段の変更」・「勤務先等に宿泊した」)をした人は全体の16%であった。

新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の勤務先からの指示 (Q5)

通勤混雑の緩和につながる行動をした回答者のうち、6割の人は勤務先からの指示や勧めに基づいて行動していた。業種別では、「運輸・通信業」(83%)、「金融・保険・不動産業」(77%)で、「勤務先からの指示等があった」との回答が多かった。参考ではあるが、平成20年に内閣府が行った「企業の事業継続及び防災の取組に関する実態調査」では、業種別のBCP策定率は、金融・保険業(42%)、情報通信業(24%)の順となっており、BCP策定の有無と新型インフルエンザ発生時の指示の有無には相関性があることが推測される。

新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の通勤時の混雑への認識 (Q6)

出勤時間や通勤手段の変更、出勤を控える等の混雑回避のための行動をとらなかった回答者の中でも、38%は「混雑を避けたいと思った」と回答した。

公共交通機関における感染防止策の放送や掲示への認識 (Q7・Q8)

公共交通機関や駅等での新型インフルエンザ感染防止策の放送・掲示については、半数以上が

「気づいた」と回答しており、今後もこのような周知が必要であると回答した人は全体の 77%に上った。

関西地区での新型インフルエンザ A/H1N1 対応への評価 (Q 9)

昨春の新型インフルエンザ発生への対応について過剰反応だったと思うかどうかについては、意見(評価)が割れた。

③ 強毒性新型インフルエンザが大流行する場合の対応

強毒性新型インフルエンザの認知度 (Q 10)

今般流行した新型インフルエンザと強毒性の新型インフルエンザとの違いについては、「知っている」人が過半数の 55%であったが、一方、「知らなかった」と「あまり知らなかった」もあわせて 45%あった。

強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識 (Q 11)

強毒性新型インフルエンザを想定すると、通勤時に「混雑を避けたい」人が全体の 68%となっている。また、新型インフルエンザ A/H1N1 発生時には「混雑していても、気にならなかった」と回答した人の中でも、48%が「混雑を避けたい」と回答しており、強毒性新型インフルエンザの大流行時には混雑に対する認識も異なると言える。

強毒性新型インフルエンザ大流行時に通勤時の混雑回避のために行いたいこと (Q 12、13、14、15)

強毒性新型インフルエンザが大流行する場合、通勤時の混雑回避のために行いたいこととしては、「出勤時間を変更したい」が最も多く、次いで「出勤を控えたい」、「通勤手段を変更したい」、「勤務先等に宿泊したい」の順となった。

「出勤時間を変更したい」回答者のうち、8割が前後 1 時間以内での変更を考えており、1 時間を超える時差出勤を考えている人は 2 割にとどまった。また、本調査結果に基づく強毒性新型インフルエンザ大流行時の出勤時間帯の分布では、通常時に比べ「8 時 30 分～8 時 59 分」のピークが緩和されるものの、8 時台に出勤する人が依然として多くなっている。

「通勤手段を変更したい」と回答した人の変更後の通勤手段では、「自家用車」(40%)、「自転車」(34%)が多く、「バイク」、「タクシー」、「徒歩」は 1 割に満たなかった。

「出勤を控えたい」と回答した人のうち、出勤を控えた場合の対応として「自宅等での勤務(テレワーク)」を選択する人は、55%と半数を超えた。

強毒性新型インフルエンザ大流行時の勤務先の指示等の必要性 (Q 16)

強毒性新型インフルエンザ大流行時に、出勤時間や通勤手段の変更、出勤を控える等の行動をとる場合、80%の人が勤務先からの指示や勧めが必要と考えており、強毒性新型インフルエンザ発生時の通勤時の混雑回避のためには勤務先からの指示等が重要であると考えられる。さらに、新型インフルエンザ A/H1N1 発生時には自主的に判断したと回答した人の中でも、BCP 等に従って行動する、指示等が必要との回答は 62%に達した。強毒性新型インフルエンザ大流行時には、新型インフルエンザ A/H1N1 発生時以上に勤務先の指示等の重要性は高まると考えられる。

強毒性新型インフルエンザ大流行時の公共交通機関への影響の認識（Q17）

「通常通り運行される」と思っている人が69%であり、鉄道輸送に影響が出ると思っている人は合わせて31%であった。

公共交通機関での感染防止のために必要な社会の取組（Q18）

公共交通機関における感染拡大防止のために社会全体として必要な取組として最も多かったのは、「手洗い・うがい」であり、「咳エチケット」、「乗車中のマスクの着用」も7割を超えた。また、通勤混雑の低減につながる取り組みについては「出勤を控える」35%、「大幅な時差通勤を行う」32%、「乗車中、対人距離を確保する(1~2m)」24%、「通勤手段を変更する」17%であった。

「社会全体」として必要と思う取り組みに対しては「出勤を控える」が「大幅な時差通勤を行う」を上回り、「個人」が通勤混雑を避けるために実施したい行動として「出勤する時間を変更したい」、「出勤を控えたい」の順であったのと回答が逆転している。

同居家族の人数と強毒性新型インフルエンザ大流行時の移動・転居の有無（Q19、20、21、22）

強毒性新型インフルエンザ大流行時の移動・転居については、「移動・転居しない」との回答が89%と「移動・転居する」を大きく上回った。また、移動・転居する家族の属性として最も多いのは「本人」であり、次いで「配偶者」、「小学生・中学生」となっている。さらに、世帯人数に対する移動・転居する人数の割合を都道府県別に見ると、サンプル数の非常に少ない三重県・滋賀県・和歌山県を除けば、いわゆる都市部ほど移動・転居する人数の割合が高く、「大阪市」・「大阪市以外の大阪府」・「兵庫県」・「京都府」・「奈良県」の順になった。

通常時の出勤時間帯別に見た混雑への認識

通常時の通勤時間帯別に見ると、混雑する時間帯に出勤する人ほど、混雑を避けたい、時差出勤をしたいという意識が強いことがわかる。新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の通勤時の混雑への認識では、8 時台で「混雑を避けたいと思った」と回答する人が他の時間帯に比べて多い。強毒性新型インフルエンザ大流行時では、8 時・9 時・10 時台において「混雑を避けたい」との回答が多く、いずれも 70%を超えている。また、強毒性新型インフルエンザが大流行する場合に通勤時の混雑回避のために行いたいことでは、8 時・9 時台に出勤する人ほど「出勤時間を変更したい」という回答が多くなっている。

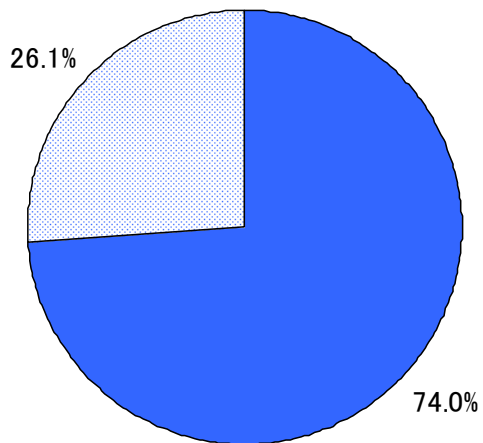
混雑回避の手段としての時差出勤

強毒性新型インフルエンザが大流行する場合に通勤時の混雑を避けるために行いたいこととして「出勤時間を変更したい」という回答が最も多かったが、感染リスク低減という観点からは、可能であれば出勤を控えることの方が望ましいと考えられる。一方で「出勤時間を変更したい」と回答した人の8割において、その変更幅は時間帯として1時間以内となっている。また、公共交通機関における感染防止のために必要な社会の取組では、「大幅な時差通勤を行う」という回答は「出勤を控える」よりも少ない。

以上のことから、勤務先の指示の有無など不確定要素の多い中で、実際に取り組みやすいと考えられるものとして、大幅ではない時差出勤という回答が多くなったと推測される。

1. 5 回答者の基本属性

①性別

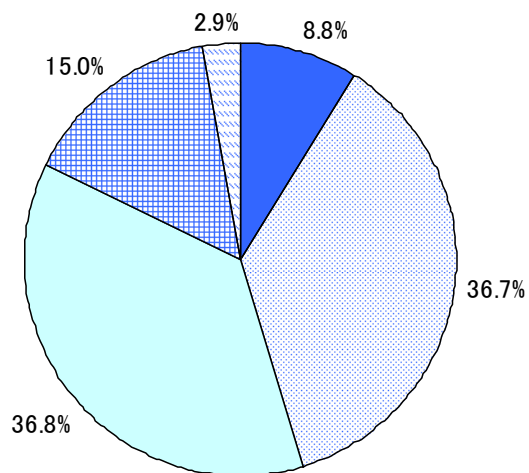


調査数	男性	女性
2000	1479	521
100.0	74.0	26.1

■ 男性 □ 女性

※表は上段が回答数、下段が回答割合（％）を示す。以降全て同様。

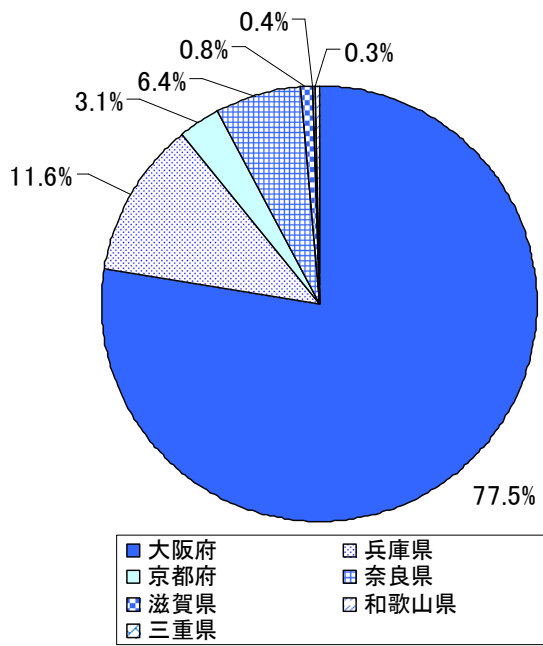
②年齢



調査数	29歳以下	30歳~39歳	40歳~49歳	50歳~59歳	60歳以上
2000	175	733	735	299	58
100.0	8.8	36.7	36.8	15.0	2.9

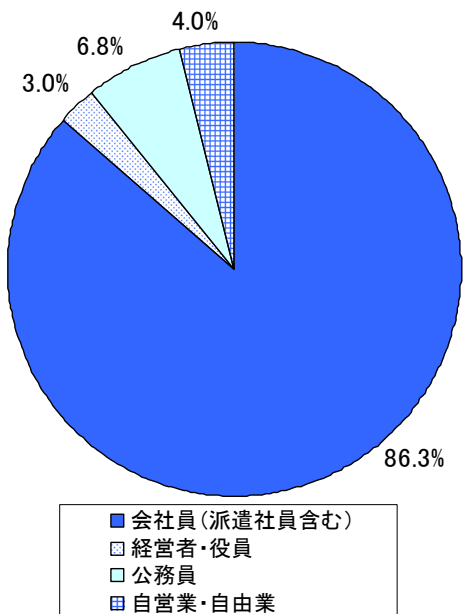
■ ~29歳 □ 30歳~39歳
 □ 40歳~49歳 ■ 50歳~59歳
 □ 60歳以上

③居住都道府県



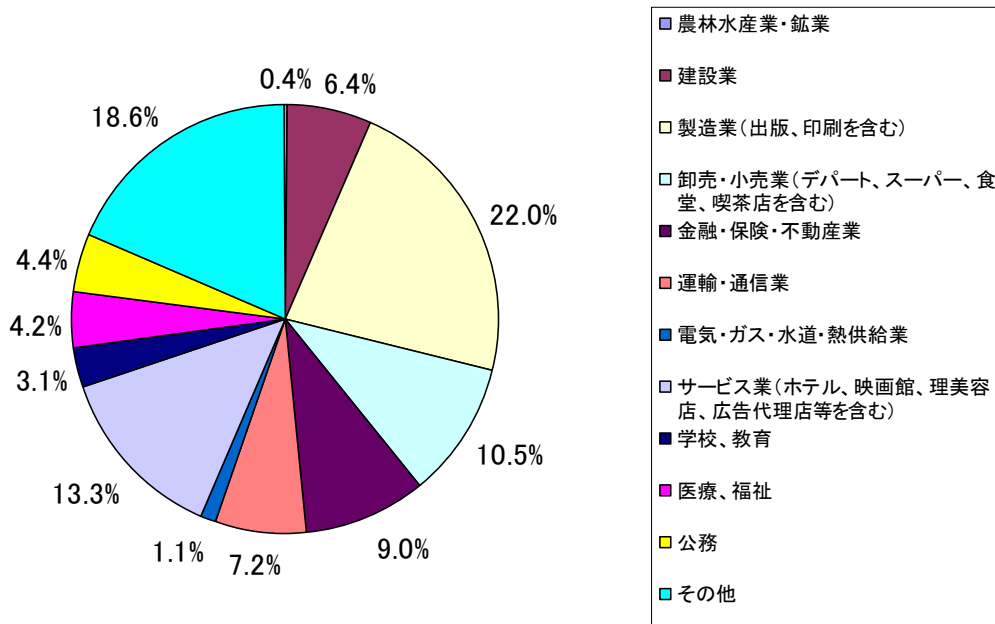
調査数	大阪府	兵庫県	京都府
2000	1550	232	62
100.0	77.5	11.6	3.1
	奈良県	和歌山県	三重県
	128	8	5
	6.4	0.8	0.3

④職業



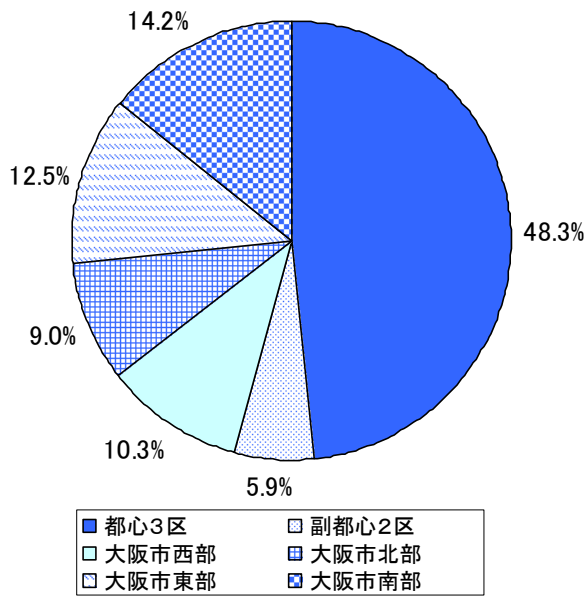
調査数	会社員(派遣社員含む)	経営者・役員	公務員	自営業・自由業
2000	1725	60	136	79
100.0	86.3	3.0	6.8	4.0

⑤業種



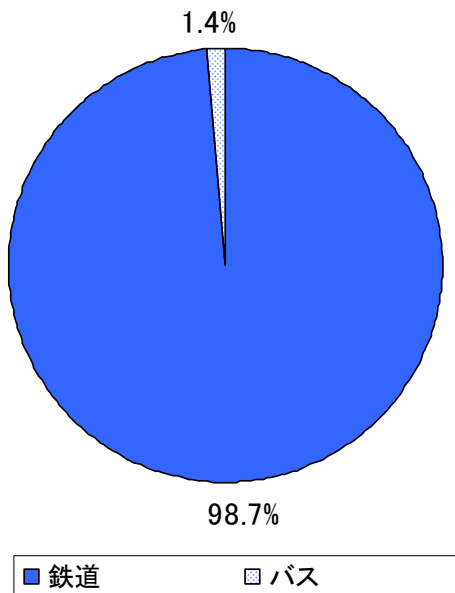
調査数	農林水産業・鉱業	建設業	製造業(出版、印刷を含む)	卸売・小売業(デパート、スーパー、食堂、喫茶店を含む)	金融・保険・不動産業	運輸・通信業	電気・ガス・水道・熱供給業	サービス業(ホテル、映画館、理美容店、広告代理店等を含む)	学校、教育	医療、福祉	公務	その他
2000	7	128	440	209	180	144	22	266	61	83	88	372
100.0	0.4	6.4	22.0	10.5	9.0	7.2	1.1	13.3	3.1	4.2	4.4	18.6

⑥勤務先の所在地



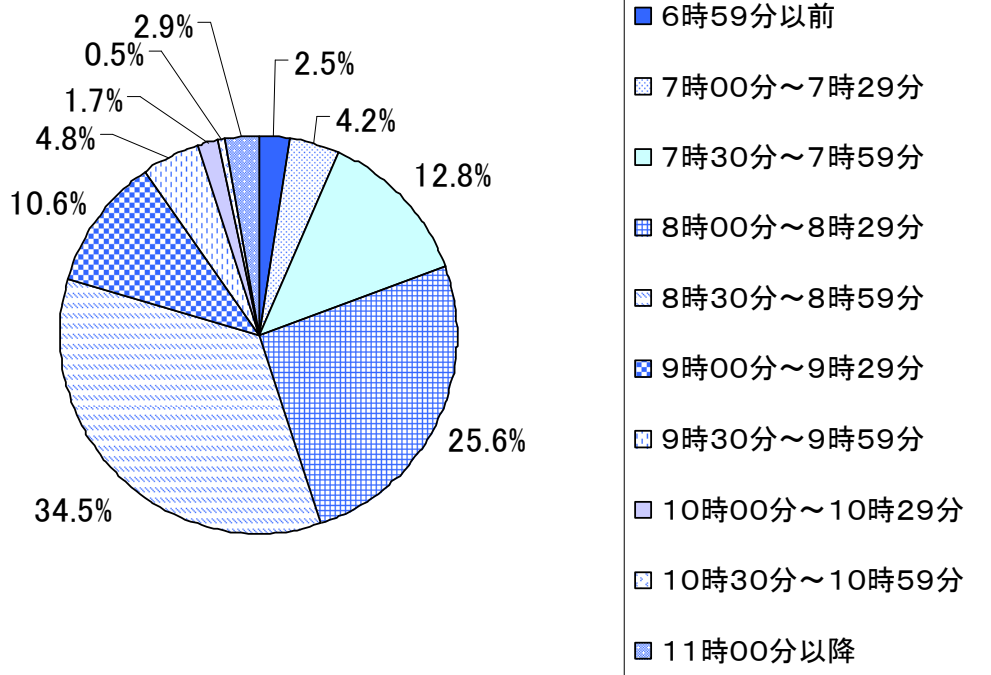
調査数	都心3区	副都心2区	大阪市西部
2000	965	117	205
100.0	48.3	5.9	10.3
大阪市北部	大阪市東部	大阪市南部	
179	250	284	
9.0	12.5	14.2	

⑦通常時の通勤手段



調査数	鉄道	バス
2000	1973	27
100.0	98.7	1.4

⑧通常時の出勤時間帯



調査数	6時59分以前	7時0分～7時5分	7時3分～7時7分	7時8分～8時2分	8時3分～8時8分	8時9分～9時2分	9時3分～9時9分	9時10分～10時0分	10時1分～10時10分	10時11分～11時0分以降
2000	50	83	256	512	690	212	96	34	10	57
100.0	2.5	4.2	12.8	25.6	34.5	10.6	4.8	1.7	0.5	2.9

2. 本調査結果

2. 1 新型インフルエンザの感染防止策の認知度等

【設問】

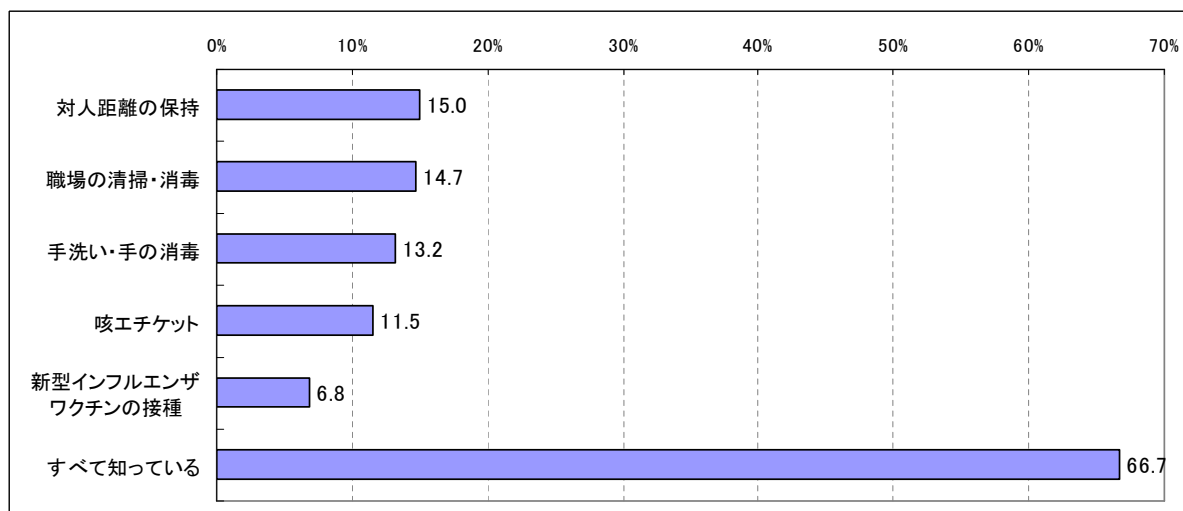
■ Q 1 あなたが、初めて知った、または、初めて理解したと思う感染防止策をすべてお答えください。(複数選択可)

【対象】 全員 (n=2000)

【結果】

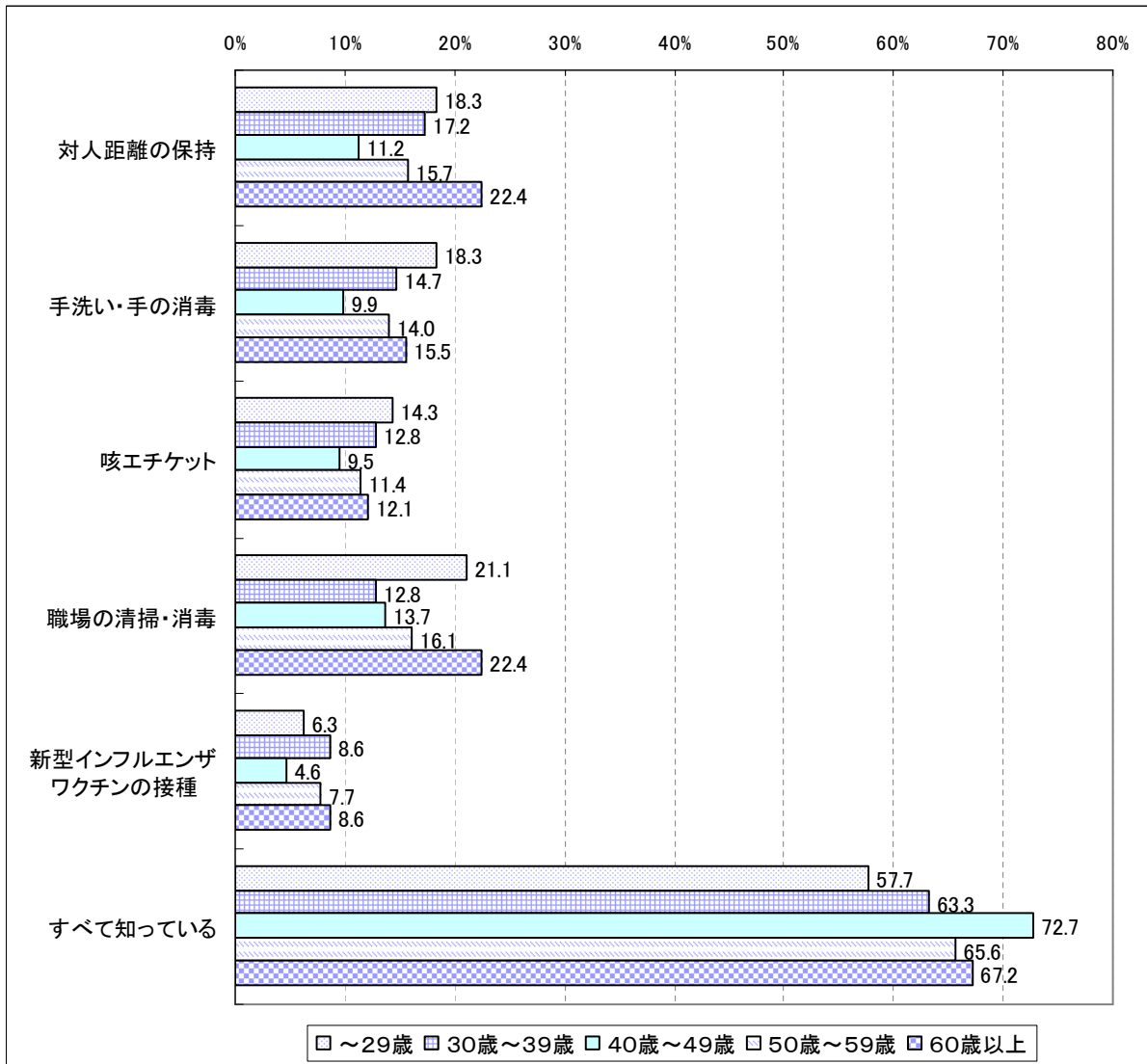
- ・ 選択肢に挙げた新型インフルエンザの感染防止策の「全てを知っている」と回答した人は、全体の 67%に達した。
- ・ 初めて知った(=これまで知らなかった)と回答した人の比較的多い感染防止策は、「対人距離の保持 (15%)」、「職場の清掃・消毒 (15%)」など。
- ・ 世代別に見ると、20 代では他世代と比して、初めて知った(=これまで知らなかった)との回答が多くなった。

図 1 初めて知った、理解した感染防止策



調査数	対人距離の保持	職場の清掃・消毒	手洗い・手の消毒	咳エチケット	ク新型インフルエンザの接種	すべて知っている
2000	300	293	264	230	136	1334
100.0	15.0	14.7	13.2	11.5	6.8	66.7

図2 世代別：初めて知った、理解した感染防止策



	調査数	対人距離の保持	手洗い・手の消毒	咳エチケット	職場の清掃・消毒	新型インフルエンザの接種	すべて知っている
全体	2000	300	264	230	293	136	1334
	100.0	15.0	13.2	11.5	14.7	6.8	66.7
~29歳	175	32	32	25	37	11	101
	100.0	18.3	18.3	14.3	21.1	6.3	57.7
30歳~39歳	733	126	108	94	94	63	464
	100.0	17.2	14.7	12.8	12.8	8.6	63.3
40歳~49歳	735	82	73	70	101	34	534
	100.0	11.2	9.9	9.5	13.7	4.6	72.7
50歳~59歳	299	47	42	34	48	23	196
	100.0	15.7	14.0	11.4	16.1	7.7	65.6
60歳以上	58	13	9	7	13	5	39
	100.0	22.4	15.5	12.1	22.4	8.6	67.2

【設問】

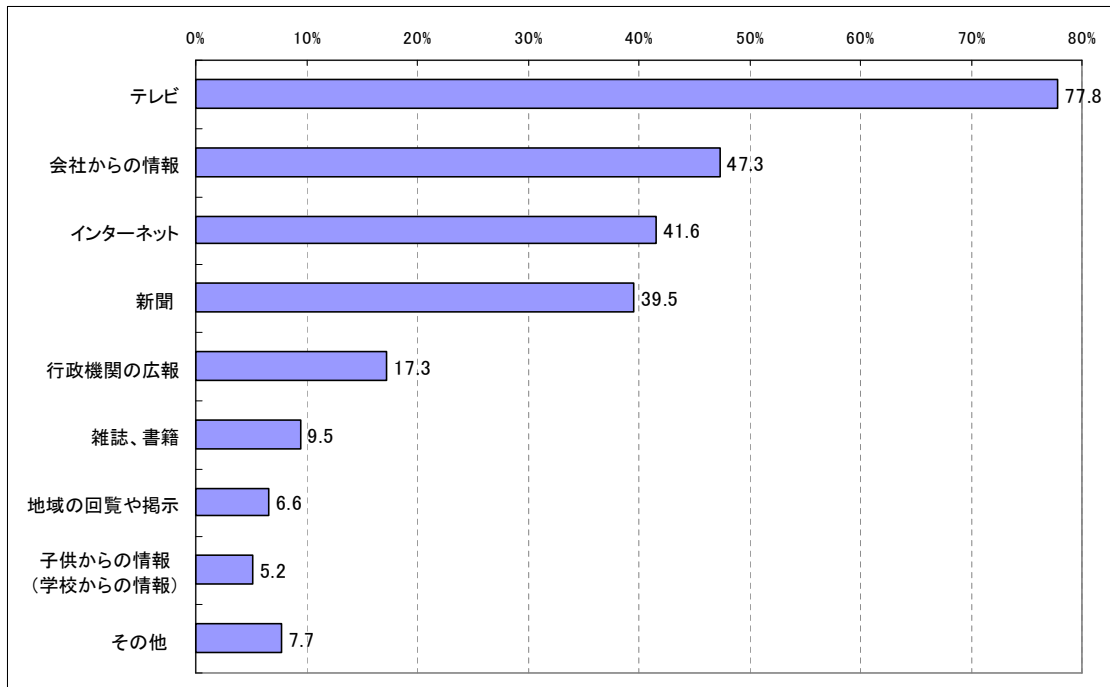
■ Q 2 あなたは、新型インフルエンザの感染防止策について、何を通じて知りましたか。(複数選択可)

【対象】 Q 1 の感染防止策のうち、いずれかあるいは全てを知っていた回答者 (n=1967)

【結果】

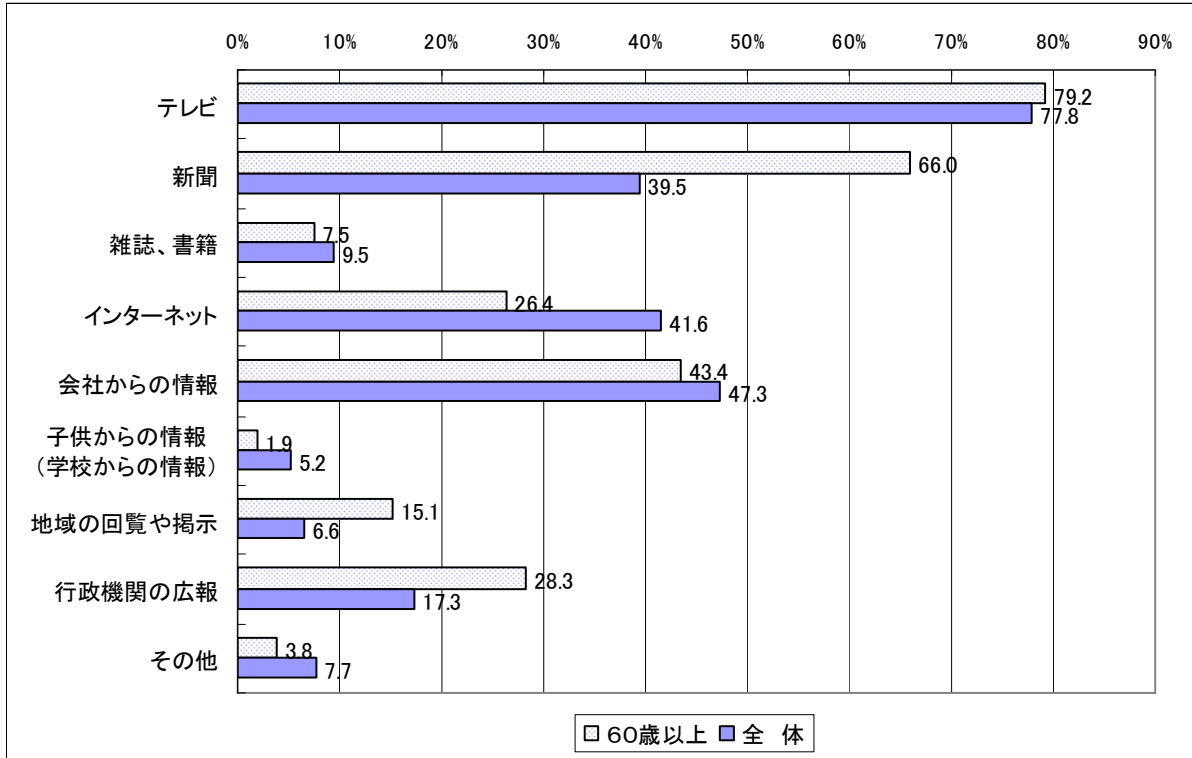
- ・テレビ (78%)、インターネット (42%)、新聞 (40%) など、マスメディアを通じて感染防止策を知ったと回答した人が多い。
- ・マスメディア以外では、「会社からの情報 (47%)」との回答が多く、「行政機関の広報 (17%)」や「地域の回覧や掲示 (7%)」や「子供からの情報 (学校からの情報) (5%)」は低い水準にとどまった。
- ・世代による感染防止策の認知媒体の顕著な相違はなかったが、60 歳以上では「インターネット」との回答割合が低く、「行政機関の広報」「地域の回覧や掲示」「新聞」と回答した人の割合が全体と比して高かった。
- ・本調査はインターネットアンケートにより実施しているため、認知媒体としてインターネットと回答する割合は、他の手法による調査と比較して高いと考えられる。

図3 感染防止策の認知媒体



調査数	テレビ	会社からの情報	インターネット	新聞	行政機関の広報	雑誌、書籍	地域の回覧や掲示	子供からの情報 (学校からの情報)	その他
1967	1531	931	818	776	341	187	130	103	151
100.0	77.8	47.3	41.6	39.5	17.3	9.5	6.6	5.2	7.7

図4 世代別感染防止策の認知媒体



	調査数	テレビ	新聞	雑誌、書籍	インターネット	会社からの情報	子供からの情報 (学校からの情報)	地域の回覧や掲示	行政機関の広報	その他
全体	1967	1531	776	187	818	931	103	130	341	151
	100.0	77.8	39.5	9.5	41.6	47.3	5.2	6.6	17.3	7.7
～29歳	172	149	56	16	65	76	6	9	17	17
	100.0	86.6	32.6	9.3	37.8	44.2	3.5	5.2	9.9	9.9
30歳～39歳	722	545	226	68	326	323	26	37	122	60
	100.0	75.5	31.3	9.4	45.2	44.7	3.6	5.1	16.9	8.3
40歳～49歳	727	572	322	70	308	358	58	58	133	58
	100.0	78.7	44.3	9.6	42.4	49.2	8.0	8.0	18.3	8.0
50歳～59歳	293	223	137	29	105	151	12	18	54	14
	100.0	76.1	46.8	9.9	35.8	51.5	4.1	6.1	18.4	4.8
60歳以上	53	42	35	4	14	23	1	8	15	2
	100.0	79.2	66.0	7.5	26.4	43.4	1.9	15.1	28.3	3.8

2. 2 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の対応

【設問】

■ Q 3 今年の5月に新型インフルエンザの発生が報じられた当初、通勤で公共交通機関を利用する時、あなたが感染防止のため行なったことをお答えください。(各項目について「あり」・「なし」を選択)。

【対象】 全員 (n=2000)

■ Q 4 あなたは、通勤時の公共交通機関の混雑を避けるためにどのようなことを行いましたか。該当するものを全てお答えください。(複数選択可)

【対象】 Q 3 「混雑を避けたことがあった」で「あり」と選択した回答者 (n=484、全回答者中 24%)

【結果】

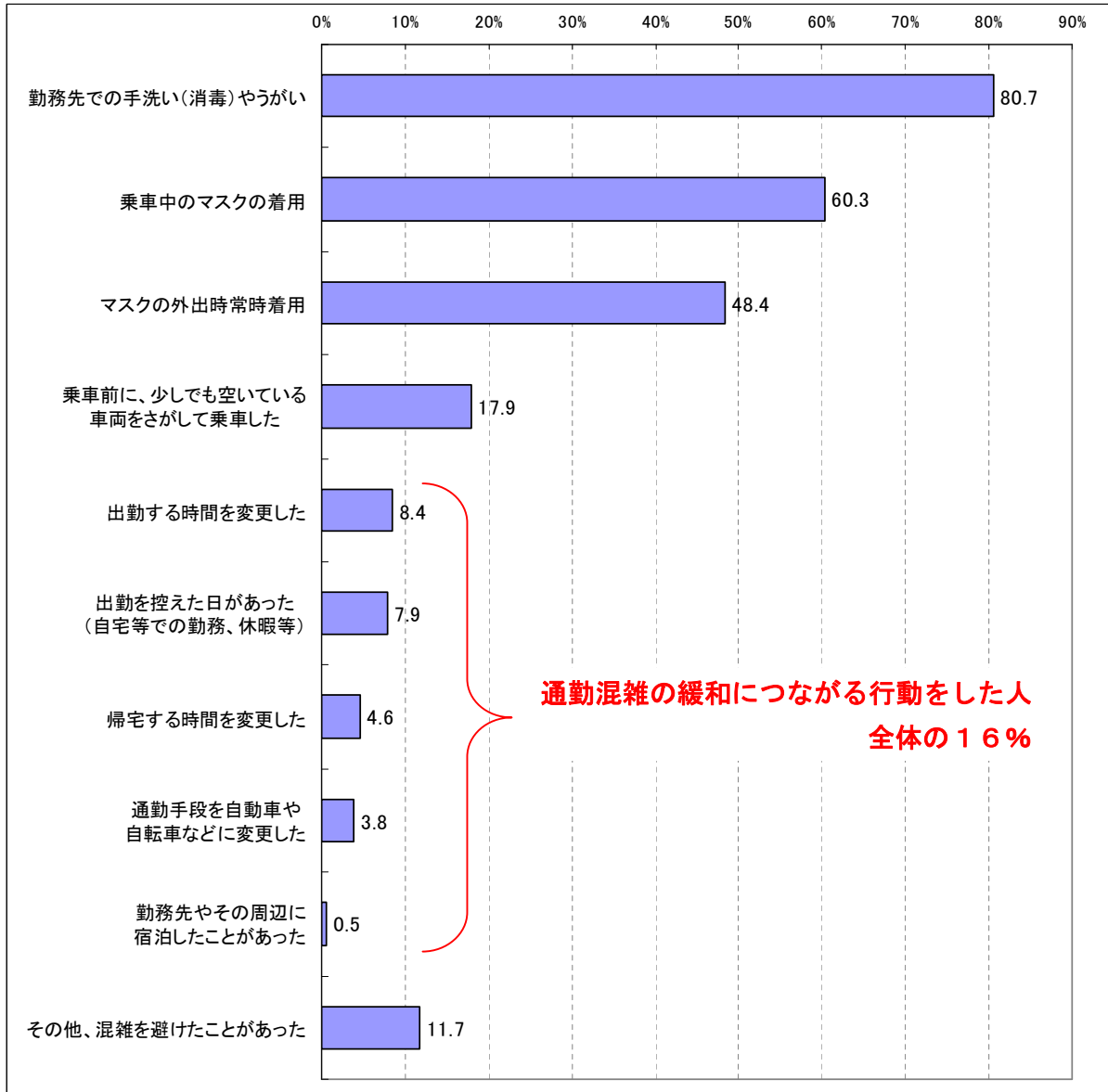
・新型インフルエンザ A/H1N1 の発生時に通勤者が公共交通機関を利用する際に行なった感染防止策は、「勤務先での手洗い(消毒)やうがい」81%、「乗車中のマスクの着用」60%、「マスクの外出時常時着用」48%であった。

・「乗車前に、少しでも空いている車両をさがして乗車した」とする答えも 18%あった。

・通勤混雑の緩和につながる行動をした人は、全体の 16%であった。

・公共交通機関の混雑を回避する手段は、「出勤する時間を変更した(8%)」、「出勤を控えた日があった(8%)」、「帰宅する時間を変更した(5%)」、「通勤手段を自動車や自転車などに変更した(4%)」、「勤務先やその周辺に宿泊したことがあった(1%)」の順となった。

図5 通勤での公共交通機関利用時に行った感染防止策



調査数	(勤務先での手洗い(消毒)やうがい)	乗車中のマスクの着用	マスクの外出時常時着用	乗車前に、少しでも空いている車両をさがして乗車した	出勤する時間を変更した	出勤を控えた日があった(自宅等での勤務、休暇等)	帰宅する時間を変更した	通勤手段を自動車や自転車などに変更した	勤務先やその周辺に宿泊したことがあった	その他、混雑を避けたことがあった
2000	1613	1205	967	357	168	157	92	76	10	234
100.0	80.7	60.3	48.4	17.9	8.4	7.9	4.6	3.8	0.5	11.7

【設問】

■ Q 5 感染防止対策について、勤め先から指示や勧めはありましたか。(ひとつだけ)

【対象】 Q 3 「混雑を避けたことがあった」または「出勤を控えた日があった」で「あり」を選択した回答者 (n=533)

【結果】

・ 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時に通勤混雑の緩和につながる行動をした人のうち、6 割の人が勤務先からの指示や勧めに基づいて行動していた。4 割の人は勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断して行動した。

・ 業種別に見ると、「金融・保険・不動産業」、「運輸・通信業」「電気・ガス・水道・熱供給業」などの業種で、勤務先からの指示や勧めに基づいたとの回答が多い。

図6 感染防止策に関する勤務先の指示の有無

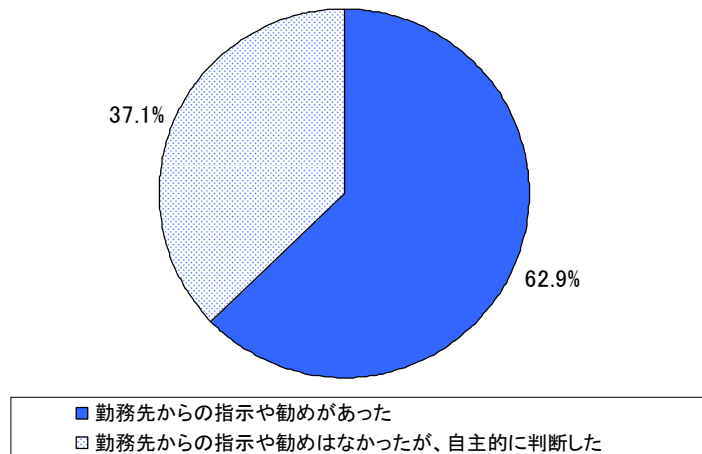
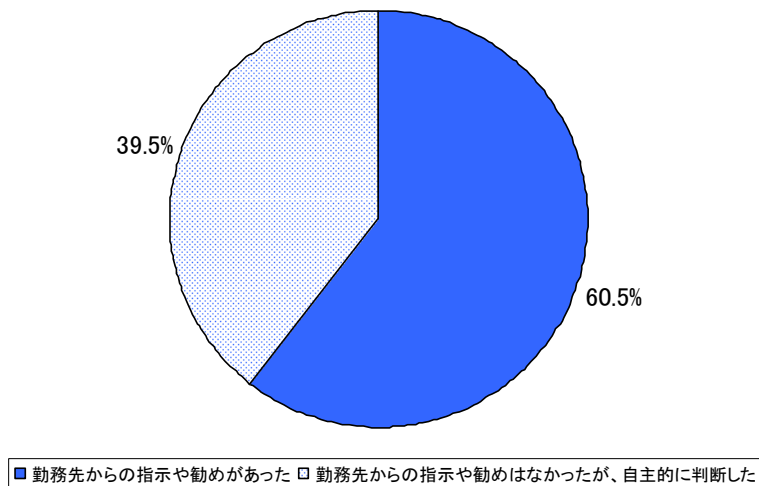


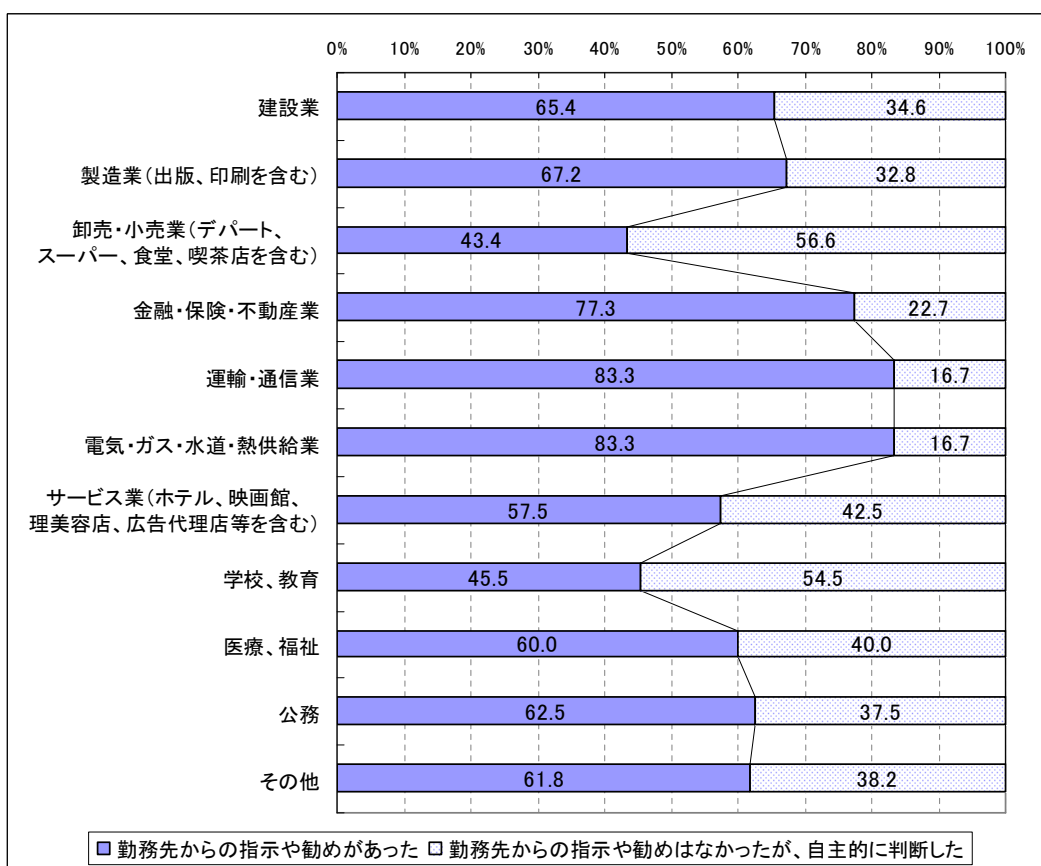
図7 感染防止策に関する勤務先の指示の有無

※ Q3,Q4にて通勤混雑の緩和につながる行動をした回答者のみの集計



	調査数	勤務先からの指示や勧めがあった	勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断した
全体	533	335	198
	100.0	62.9	37.1
通勤混雑の緩和につながる行動をした回答者	329	199	130
	100.0	60.5	39.5

図8 業種別：感染防止策に関する勤務先の指示の有無



	調査数	め勤務先があつたの指示や勧め	め勤務先は判断したのだが、自主的に
建設業	26	17	9
製造業(出版、印刷を含む)	122	82	40
卸売・小売業(デパート、スーパー、食堂、喫茶店を含む)	53	23	30
金融・保険・不動産業	44	34	10
運輸・通信業	30	25	5
電気・ガス・水道・熱供給業	6	5	1
サービス業(ホテル、映画館、理美容店、広告代理店等を含む)	73	42	31
学校、教育	22	10	12
医療、福祉	30	18	12
公務	24	15	9
その他	102	63	39

【設問】

■ Q 6 あなたは、新型インフルエンザが発生してから通勤時の混雑についてどのように感じていましたか。(ひとつだけ)

【対象】 Q 3 「混雑を避けたことがあった」・「出勤を控えた日があった」のいずれも「なし」を選択した回答者 (n=1467)

【結果】

・ 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時に「混雑を避けたことがない」かつ「出勤を控えた日がない」と回答した人の中でも 38%の人が、「混雑を避けたいと思った」と回答している。

・ 出勤時間帯別にみると、8 時台、9 時台に出勤している人が特に「混雑を避けたいと思った」と回答した比率が高い。翻って、6 時台以前、11 時台以降に出勤している人は「あまり混雑していないので気にならない」と回答した人の比率が高くなっている。

図 9 新型インフルエンザ発生時の通勤時の混雑への認識

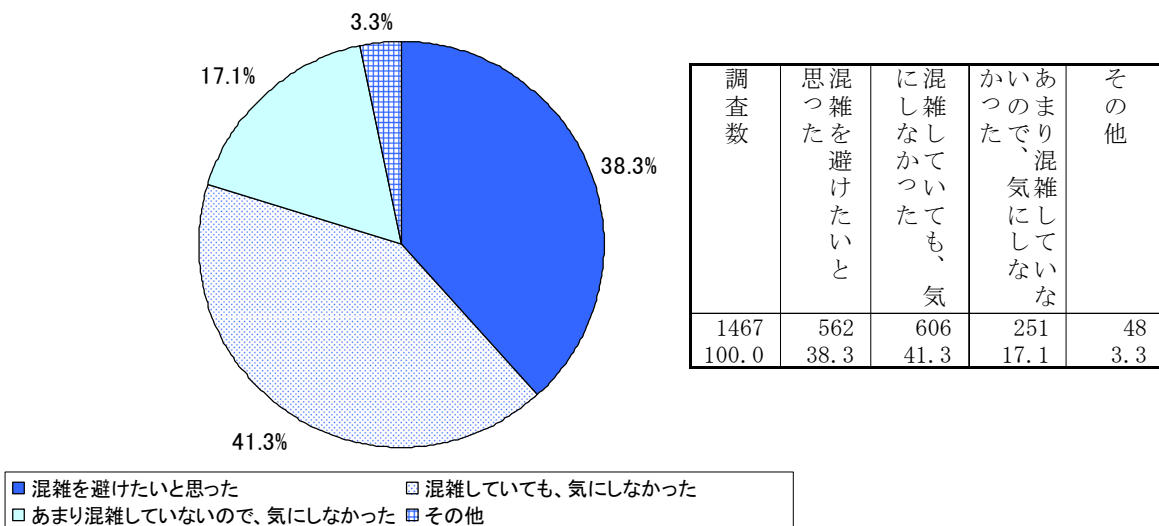
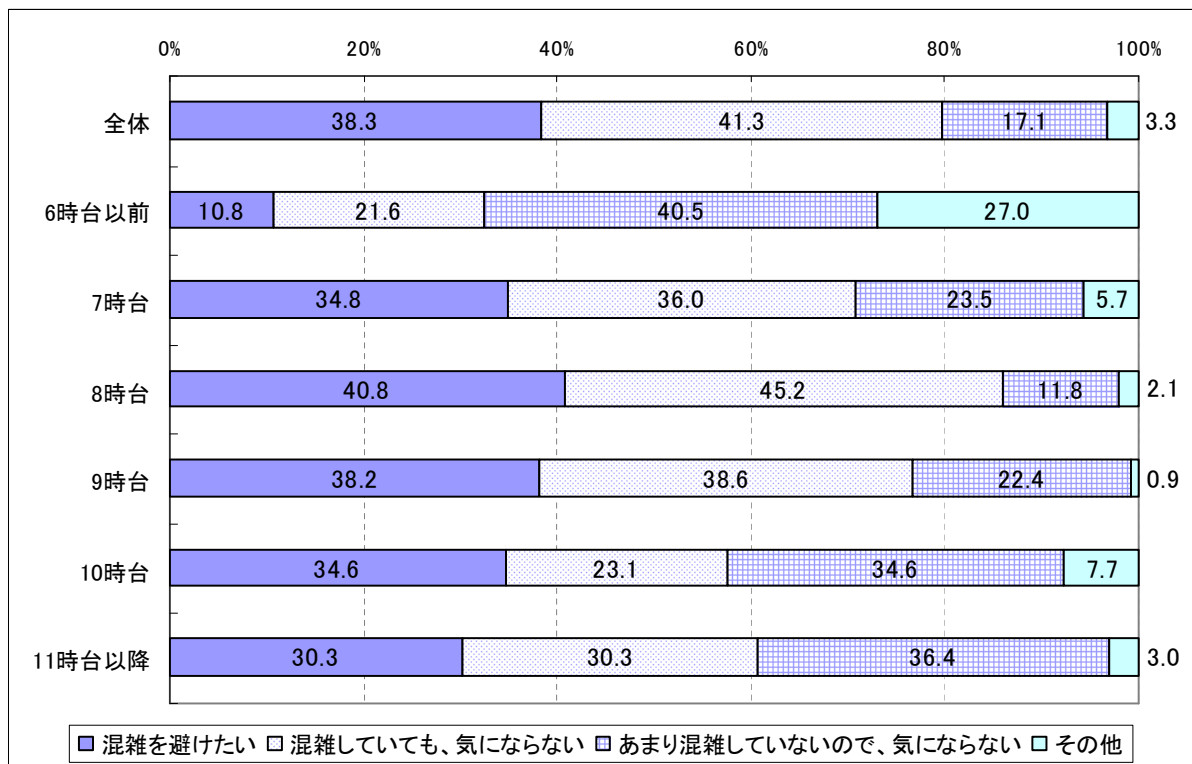


図 10 通常時の出勤時間帯別、新型インフルエンザ発生時の通勤時の混雑への認識



	調査数	混雑を避けたい	混雑していても、気にならない	あまり混雑していないので、気にならない	その他
全体	1467	562	606	251	48
6時台以前	37	4	8	15	10
7時台	247	86	89	58	14
8時台	896	366	405	106	19
9時台	228	87	88	51	2
10時台	26	9	6	9	2
11時台以降	33	10	10	12	1

【設問】

■ Q 7 鉄道・バスの車内や駅等において、新型インフルエンザの感染防止策について放送や掲示を行っていましたが、あなたは気づきましたか。(ひとつだけ)

【対象】 全員 (n=2000)

■ Q 8 鉄道・バスの車内や駅等において、新型インフルエンザの感染防止策を呼びかけたり、周知したりすることは、今後も必要と思いますか。(ひとつだけ)

【対象】 全員 (n=2000)

【結果】

- ・新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の公共交通機関における新型インフルエンザの感染防止策について放送や掲示に気づいた人は 56%であった。
- ・公共交通機関において新型インフルエンザの感染防止策を呼びかけたり、周知したりすることが必要であると考えている回答者は全体の 77%にのぼる。

図 11 公共交通機関における感染防止策の放送等の認知

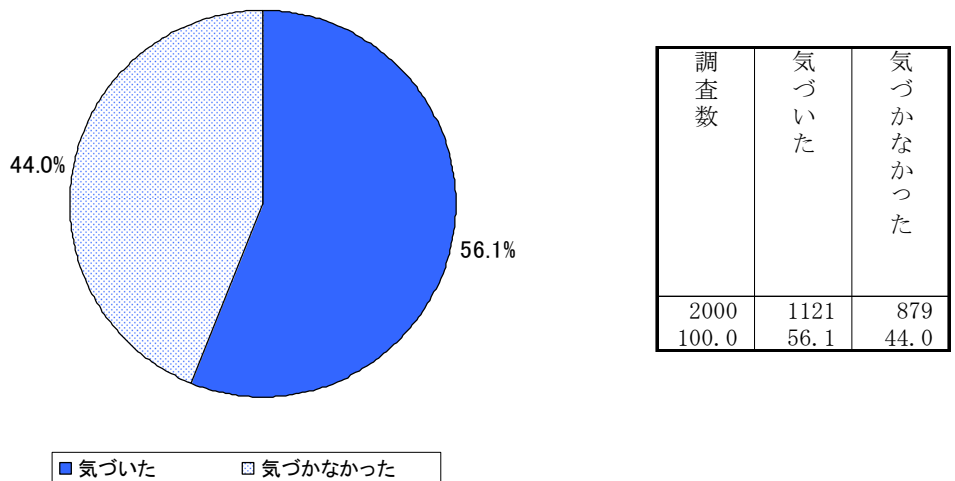
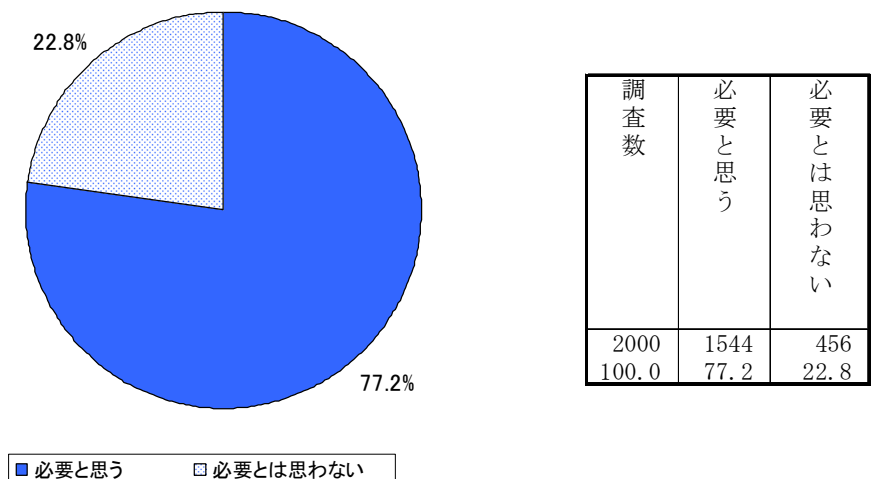


図 12 公共交通機関における感染防止策の周知の必要性



【設問】

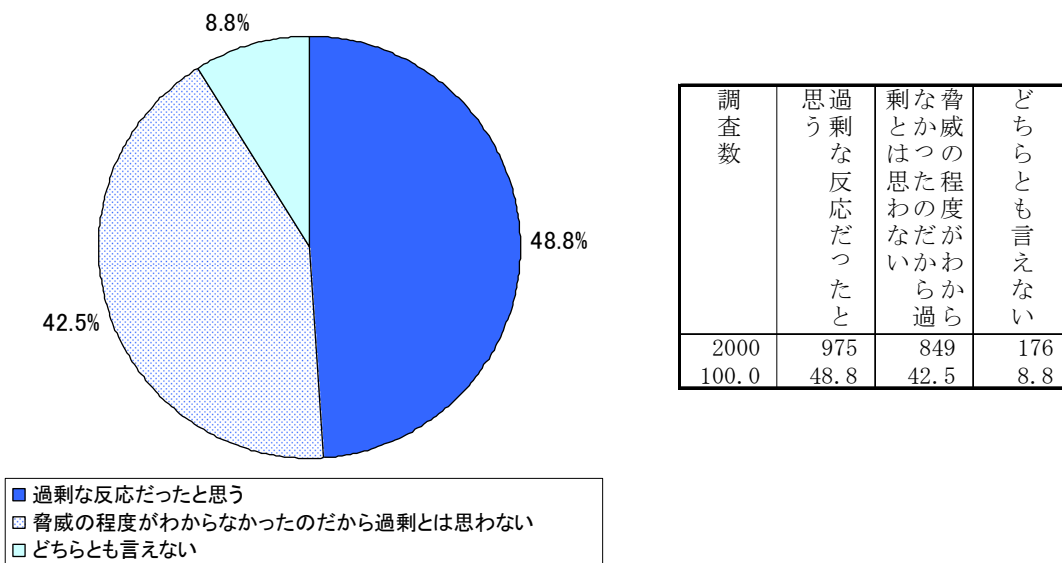
■ Q 9 本年5月頃の関西地区での新型インフルエンザ対応（個人の対応、企業の対応、学校の対応、報道のされ方等）について、全般的にどう思いますか。（ひとつだけ）

【対象】 全員（n=2000）

【結果】

・「過剰な反応だったと思う」人が49%、「脅威の程度がわからなかったのだから過剰とは思わない」人が43%、「どちらとも言えない」と答えた人が9%と、評価（意見）が割れた。

図 13 関西地区での新型インフルエンザ対応の評価



2. 3 強毒性新型インフルエンザが大流行する場合の対応

【設問】

■ Q10

<強毒性の新型インフルエンザについて>

本年5月に国内で患者が確認され、現在流行が拡大しているのは呼吸器感染が中心の新型インフルエンザ A/H1N1 です。

しかしながら、感染力が強く致死率が非常に高くなることが危惧されている強毒性の新型インフルエンザ A/H5N1 が発生する可能性は依然として存在します。

上記の囲いの内容について、知っていましたか。(ひとつだけ)

【対象】 全員 (n=2000)

【結果】

・「知っている」人が過半数の55%であったが、一方、「知らなかった」と「あまり知らなかった」もあわせて45%あった。

・世代別に見ると、世代が上がるにつれ「知っている」との回答が増加する傾向が見られ、29歳までの回答者では「知っている」との回答が35%にとどまったのに対し、60歳代以上では69%の人が「知っている」と回答している。

図 14 強毒性新型インフルエンザの認知度

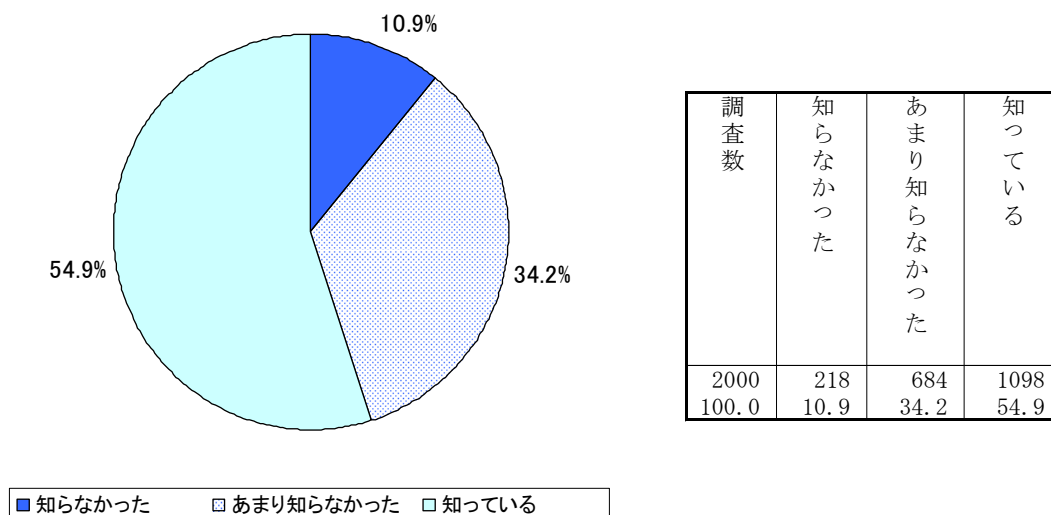
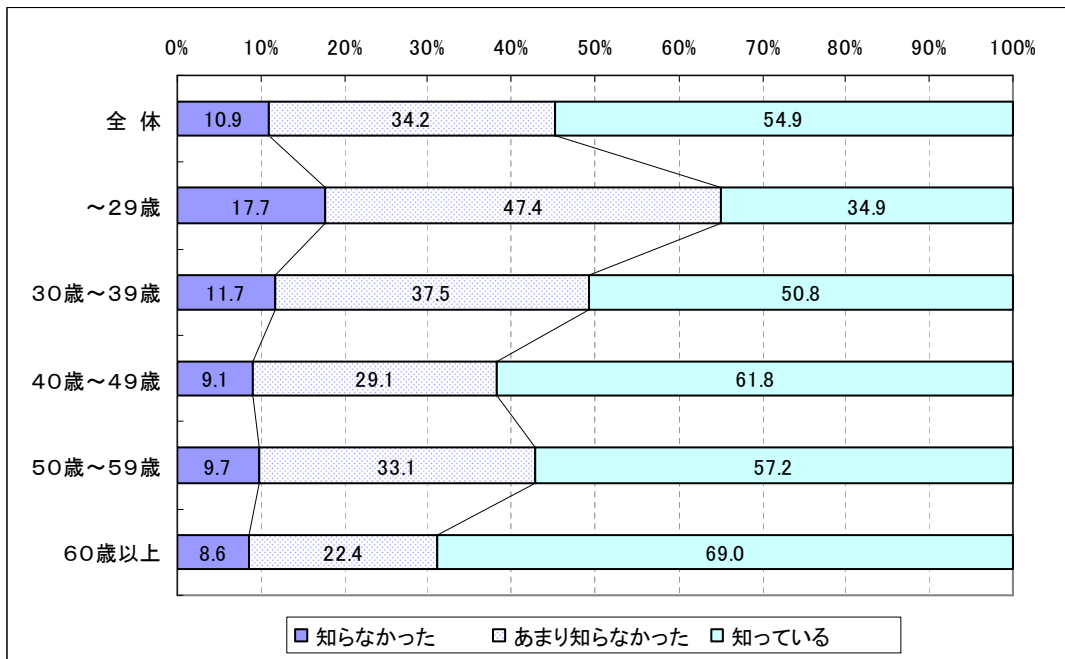


図 15 世代別：強毒性新型インフルエンザの認知度



	調査数	知らなかった	あまり知らなかった	知っている
全体	2000	218	684	1098
～29歳	175	31	83	61
30歳～39歳	733	86	275	372
40歳～49歳	735	67	214	454
50歳～59歳	299	29	99	171
60歳以上	58	5	13	40
	100.0	100.0	100.0	100.0

【設問】

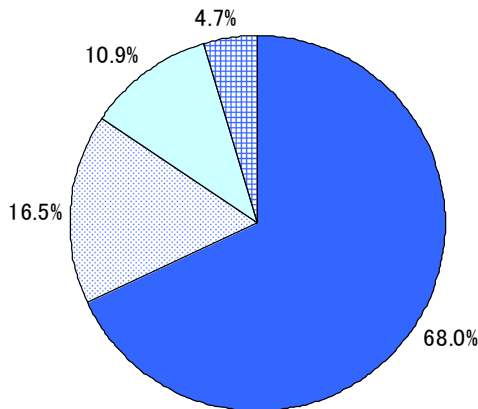
■ Q 1 1 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をどのように考えますか。(ひとつだけ)

【対象】 全員 (n=2000)

【結果】

- ・強毒性を想定すると、通勤時に「混雑を避けたい」人が全体の68%となっている。
- ・通常時の出勤時間帯別にみると、8時台、9時台、10時台に出勤している人において「混雑を避けたい」との回答が特に多く、いずれも70%を超えている。翻って、6時台以前、11時台以降に出勤している人は「あまり混雑していないので、気にならない」との回答が比較的多い。
- ・また、インフルエンザA/H1N1発生時に「混雑していても気にならない」と回答した人でも、48%が「混雑を避けたい」と回答している。

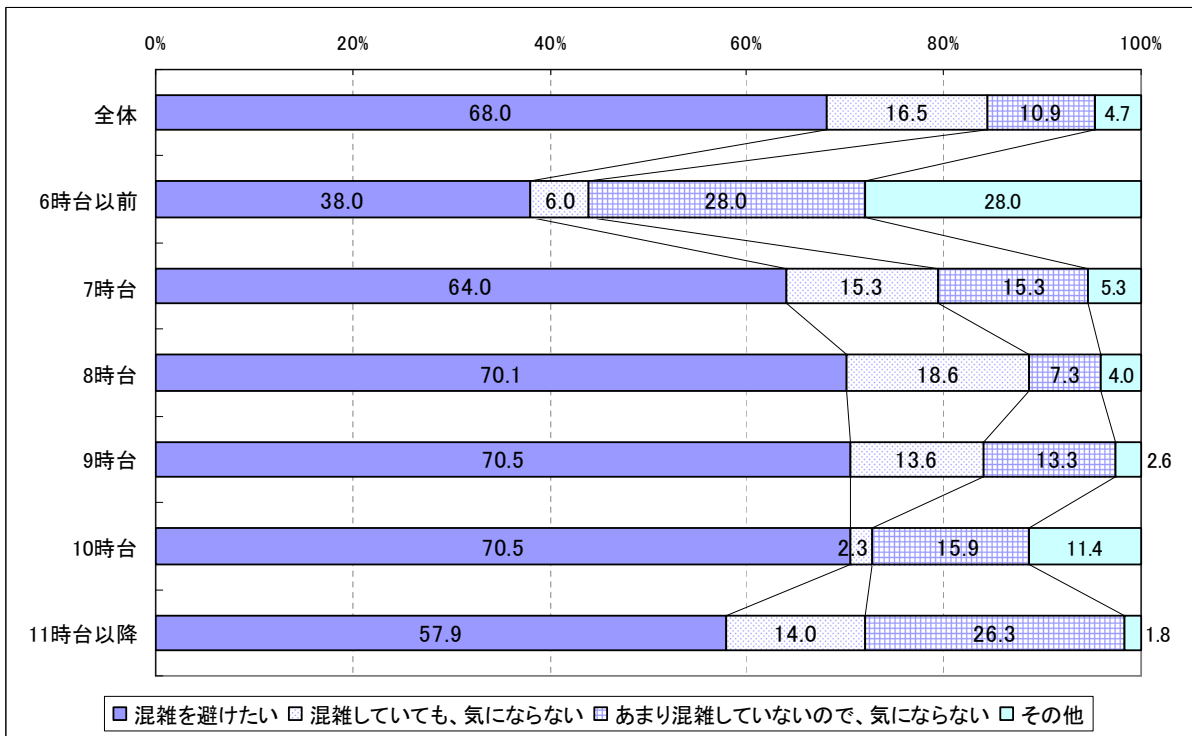
図 16 強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識



調査数	混雑を避けたい	混雑していても、気にならない	あまり混雑していないので、気にならない	その他
2000	1360	329	217	94
100.0	68.0	16.5	10.9	4.7

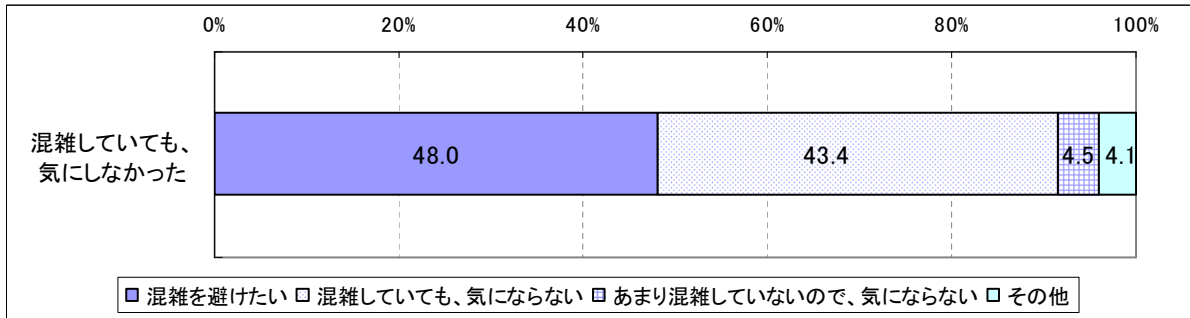
■ 混雑を避けたい □ 混雑していても、気にならない
■ あまり混雑していないので、気にならない ■ その他

図 17 通常時の出勤時間帯別、強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識



	調査数	混雑を避けたい	混雑していても、気にならない	あまり混雑していないので、気にならない	その他
全体	2000	1360	329	217	94
	100.0	68.0	16.5	10.9	4.7
6時台以前	50	19	3	14	14
	100.0	38.0	6.0	28.0	28.0
7時台	339	217	52	52	18
	100.0	64.0	15.3	15.3	5.3
8時台	1202	843	223	88	48
	100.0	70.1	18.6	7.3	4.0
9時台	308	217	42	41	8
	100.0	70.5	13.6	13.3	2.6
10時台	44	31	1	7	5
	100.0	70.5	2.3	15.9	11.4
11時台以降	57	33	8	15	1
	100.0	57.9	14.0	26.3	1.8

図 18 インフルエンザ A/H1N1 発生後の通勤時混雑に感じたこと (Q6) 別、
通常時の通勤手段別、強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識



	調査数	混雑を避けたい	混雑していても、気にならない	あまり混雑していないので、気にならない	その他
全 体	1467	919	293	173	82
	100.0	62.6	20.0	11.8	5.6
混雑を避けたいと思った	562	531	13	7	11
	100.0	94.5	2.3	1.2	2.0
混雑していても、気にしなかった	606	291	263	27	25
	100.0	48.0	43.4	4.5	4.1
あまり混雑していないので、気にしなかった	251	88	13	134	16
	100.0	35.1	5.2	53.4	6.4
その他	48	9	4	5	30
	100.0	18.8	8.3	10.4	62.5

【設問】

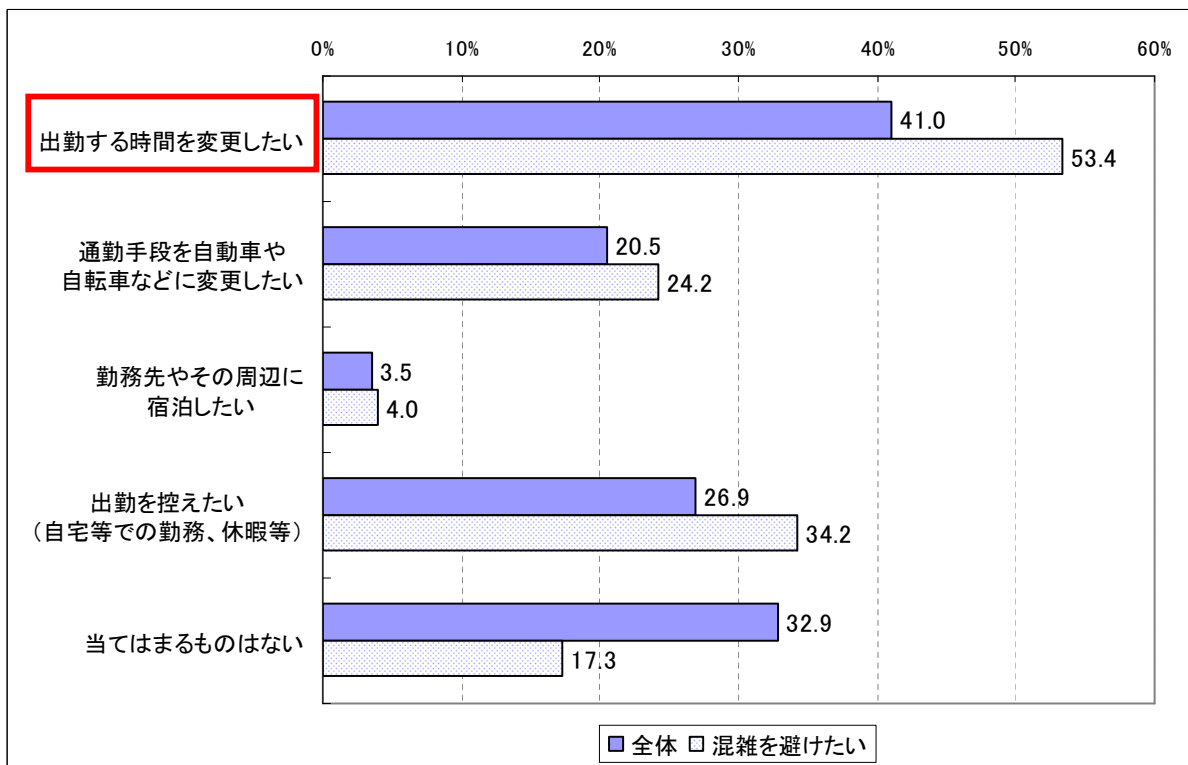
■ Q 1 2 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をさけるため、どのようなことを行いたいですか。該当するものを全てお答えください。（複数選択可）

【対象】 全員（n=2000）

【結果】

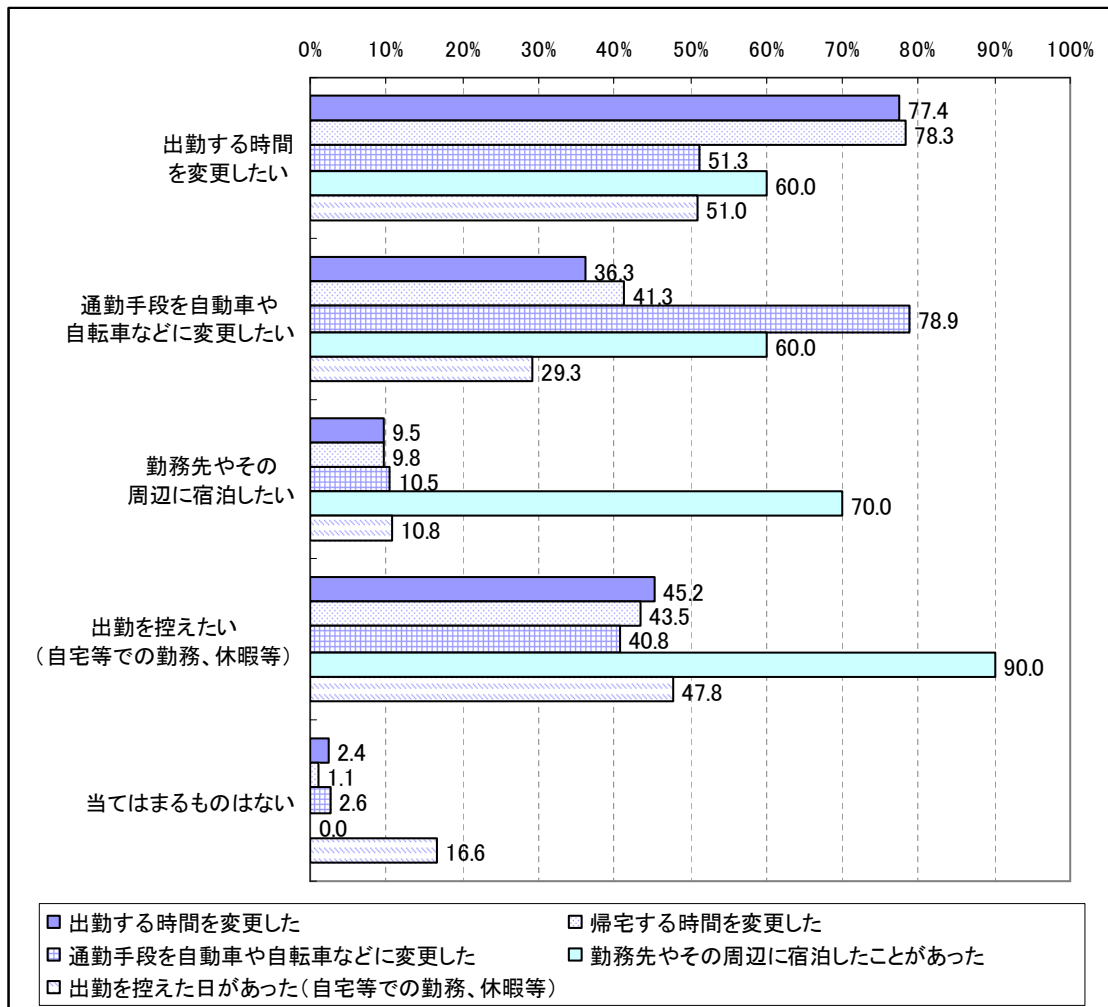
- ・Q11で「混雑を避けたい」と回答した人のみで集計すると、「出勤する時間を変更したい」53%、「出勤を控えたい」34%であった。各手段とも全体と比べて「行いたい」という回答が多かったが、特に「出勤する時間を変更したい（53%、全体と比して10%以上増加）」「出勤を控えたい（34%、全体と比して7%増加）」と回答した人が全体よりも顕著に多くなっている。
- ・新型インフルエンザ A/H1N1 発生時に混雑を回避するための行動をとった人（Q4）では、総じて強毒性新型インフルエンザ発生時にも同様の手段をとりたいと回答した割合が高い。
- ・通常時の出勤時間帯別にみると、8時台、9時台に通勤している人は「出勤する時間を変更したい」と回答している割合が高く、翻って6時台以前、11時台以降に通勤している人では顕著に低くなっている。

図 19 強毒性新型インフルエンザ大流行時に通勤時の混雑回避のために行いたいこと
 (全体・強毒性新型インフルエンザ大流行時の通勤時の混雑への認識 (Q11) 別)
 ※グラフは Q11 で「混雑を避けたい」とした回答者のみの集計



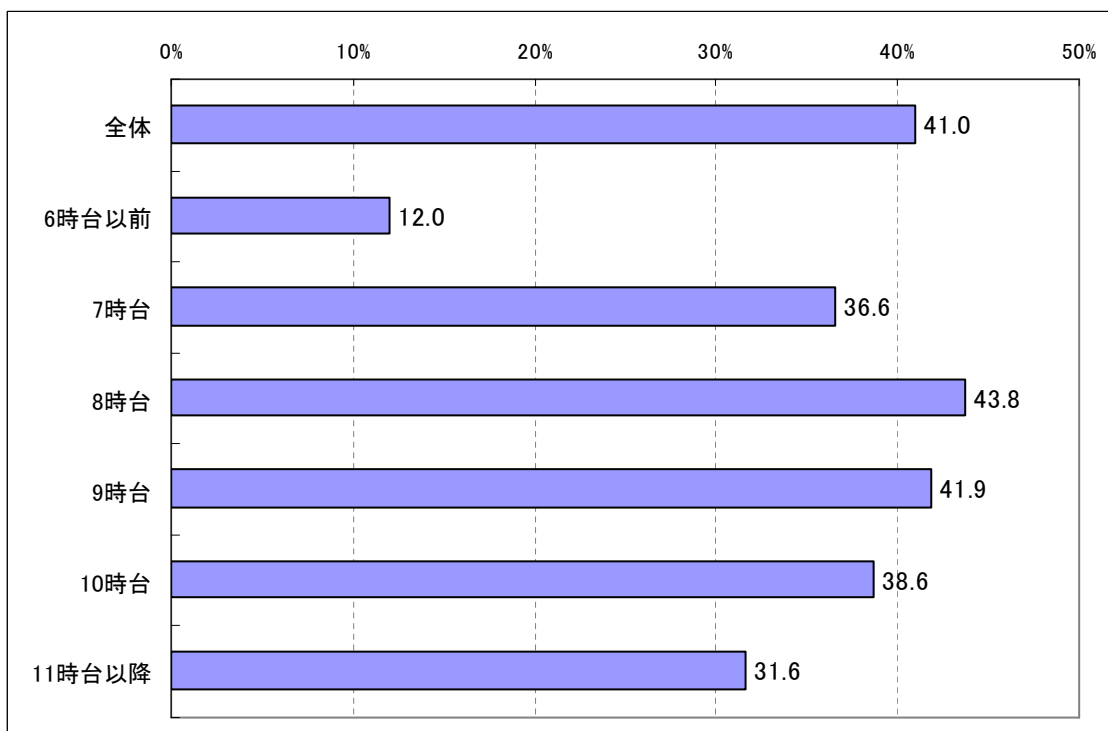
	調査数	出勤する時間を変更したい	通勤手段を自動車や自転車などに変更したい	勤務先やその周辺に宿泊したい	出勤を控えたい (自宅等での勤務、休暇等)	当てはまるものはない
全体	2000	820	409	69	538	658
	100.0	41.0	20.5	3.5	26.9	32.9
混雑を避けたい	1360	726	329	54	465	235
	100.0	53.4	24.2	4.0	34.2	17.3
混雑していても、気にならない	329	52	41	8	37	219
	100.0	15.8	12.5	2.4	11.2	66.6
あまり混雑していないので、気にならない	217	34	32	6	26	132
	100.0	15.7	14.7	2.8	12.0	60.8
その他	94	8	7	1	10	72
	100.0	8.5	7.4	1.1	10.6	76.6

図 20 新型インフルエンザ A/H1N1 発生時の対応 (Q4) 別、
強毒性新型インフルエンザ大流行時に通勤時の混雑回避のために行いたいこと



	調査数	出勤時間を変更したい	通勤手段を変更したい	勤務先やその周辺に宿	出勤を控えたい	当てはまるものはない
全体	2000	820	409	69	538	658
出勤する時間を変更した	100.0	41.0	20.5	3.5	26.9	32.9
帰宅する時間を変更した	168	130	61	16	76	4
通勤手段を自動車や自転車などに変更した	100.0	77.4	36.3	9.5	45.2	2.4
勤務先やその周辺などに宿泊したことがあつ	92	72	38	9	40	1
出勤を控えた日があった	100.0	78.3	41.3	9.8	43.5	1.1
出勤を控えた日があった	76	39	60	8	31	2
出勤を控えた日があった	100.0	51.3	78.9	10.5	40.8	2.6
出勤を控えた日があった	10	6	6	7	9	0
出勤を控えた日があった	100.0	60.0	60.0	70.0	90.0	0.0
出勤を控えた日があった	157	80	46	17	75	26
出勤を控えた日があった	100.0	51.0	29.3	10.8	47.8	16.6

図 21 通常時の出勤時間帯別、出勤時間を変更したい人の回答数



	調査数	出勤時間を変更したい
全体	2000	820
	100.0	41.0
6時台以前	50	6
	100.0	12.0
7時台	339	124
	100.0	36.6
8時台	1202	526
	100.0	43.8
9時台	308	129
	100.0	41.9
10時台	44	17
	100.0	38.6
11時台以降	57	18
	100.0	31.6

【設問】

■ Q 1 3 何時頃に勤め先に到着するようにしたいですか。(ひとつだけ)

【対象】 Q 1 2 「出勤する時間を変更したい」を選択した回答者 (n=820)

【結果】

・強毒性新型インフルエンザ発生時に「出勤する時間を変更したい」と回答した人は全体の41%。(Q 1 2)

・「出勤する時間を変更したい」と回答した人の、強毒性新型インフルエンザ発生時に出勤したい時間帯として多かったのは、「7時30分～7時59分」(20%)、次いで「7時00分～7時29分(15%)」「10時00分～10時29分(14%)」。

・通常時の出勤時間と比較して変更幅を計算した結果、多かったのは、「30分早める」の28%、「1時間早める」の15%、「1時間遅らせる」の12%であった。「出勤する時間を変更したい」人の8割が、前後1時間以内での変更を考えており、1時間を超える時差出勤を考えている人は2割にとどまっている。

・「出勤する時間帯を変更したいとは思わない」と回答した人も含めて、本アンケートの回答に基づいてパンデミック時の出勤時間帯分布を類推すると、出勤時間帯のピークである「8時30分～8時59分」に出勤する人の割合は、通常時(35%)と比してパンデミック時(22%)では13%減少する。

図 22 出勤する時間を変更したい人の割合 (Q12、全員)

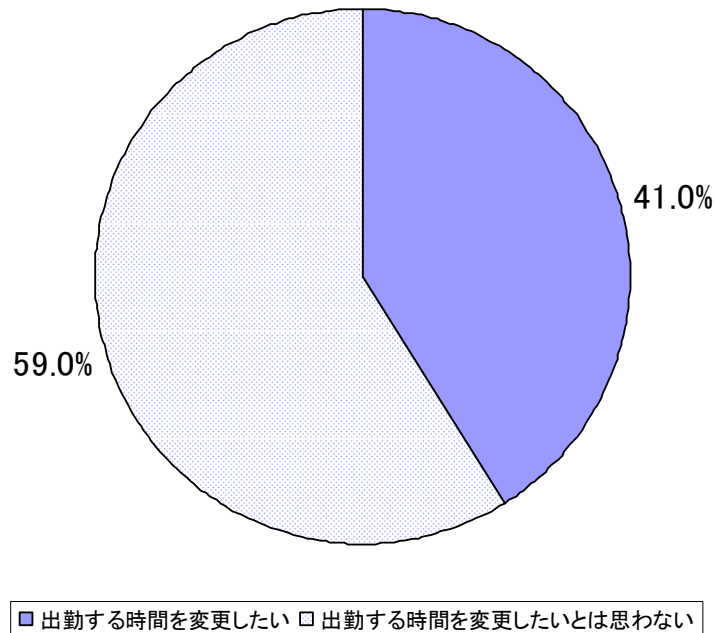
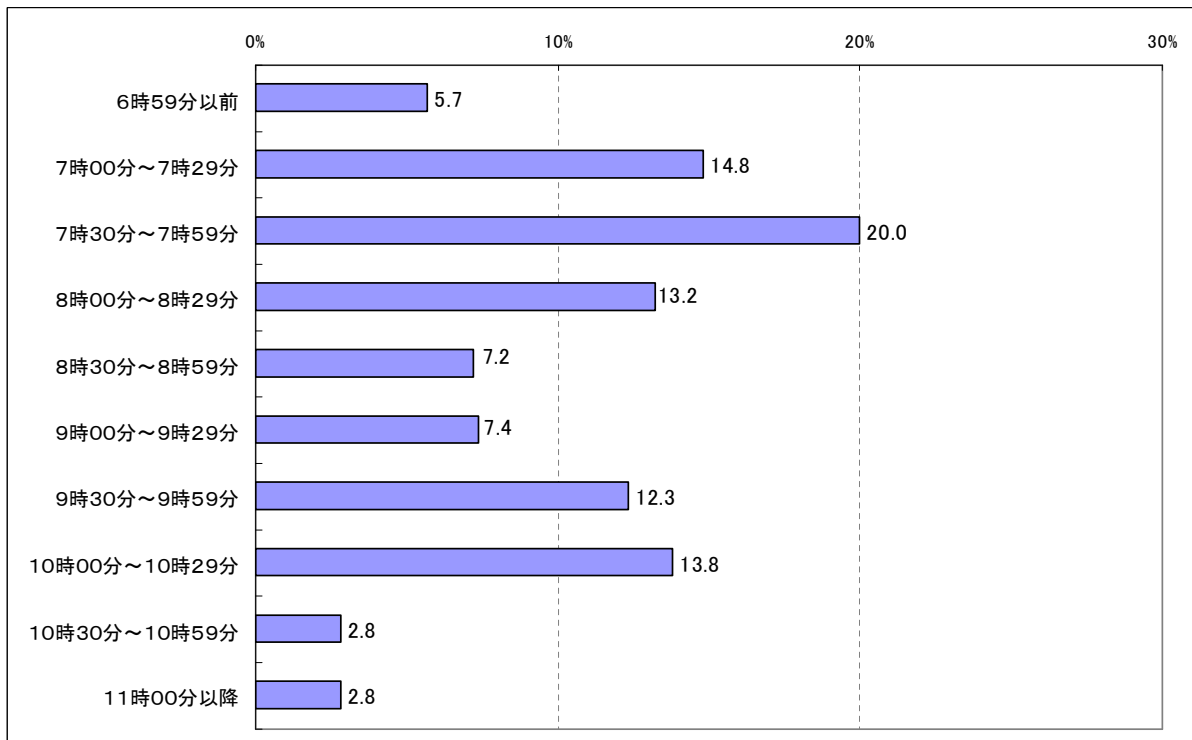
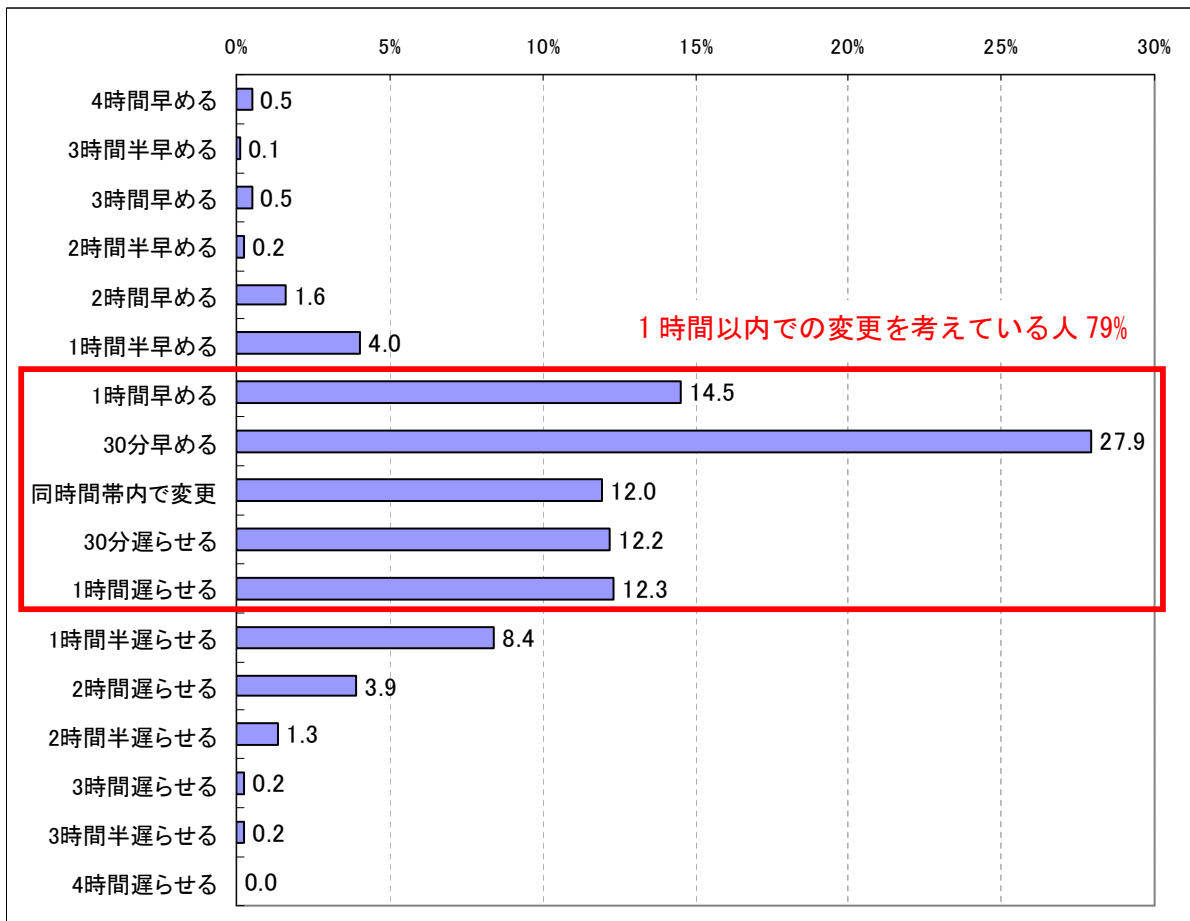


図 23 変更後の出勤時間帯（出勤する時間を変更したい回答者のみ）



調査数	6時59分以前	7時00分～7時29分	7時30分～7時59分	8時00分～8時29分	8時30分～8時59分	9時00分～9時29分	9時30分～9時59分	10時00分～10時29分	10時30分～10時59分	11時00分以降
820	47	121	164	108	59	61	101	113	23	23
100.0	5.7	14.8	20.0	13.2	7.2	7.4	12.3	13.8	2.8	2.8

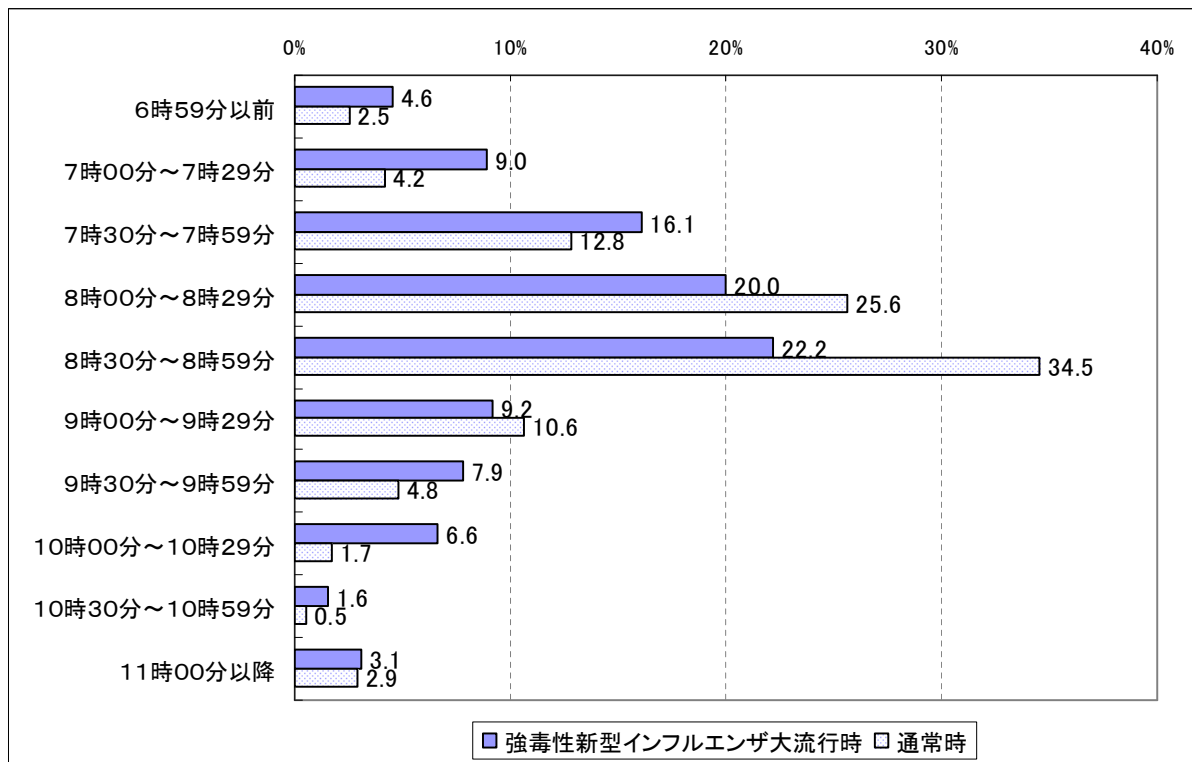
図 24 出勤時間帯の変更幅（出勤する時間を変更したい回答者のみ）



※「7時00分～7時29分」から「7時00分～7時29分」に変更する場合は「同時間帯内で変更」、
 「7時00分～7時29分」から「6時59分以前」に変更する場合は「30分早める」、「7時00分～7
 時29分」から「7時30分～7時59分」に変更する場合は「30分遅らせる」と考える。他の時間帯も
 同様。

調査数	4時間早める	3時間半早める	3時間早める	2時間半早める	2時間早める	1時間半早める	1時間早める	30分早める
820 100.0	4 0.5	1 0.1	4 0.5	2 0.2	13 1.6	33 4.0	119 14.5	229 27.9
同時間帯内で変更	30分遅らせる	1時間遅らせる	1時間半遅らせる	2時間遅らせる	2時間半遅らせる	3時間遅らせる	3時間半遅らせる	4時間遅らせる
98 12.0	100 12.2	101 12.3	69 8.4	32 3.9	11 1.3	2 0.2	2 0.2	0 0.0

図 25 強毒性新型インフルエンザ大流行時と通常時の出勤時間帯の分布（全回答者）



	調査数	6時59分以前	7時00分～7時29分	7時30分～7時59分	8時00分～8時29分	8時30分～8時59分	9時00分～9時29分	9時30分～9時59分	10時00分～10時29分	10時30分～10時59分	11時00分以降
通常時	2000 100.0	50 2.5	83 4.2	256 12.8	512 25.6	690 34.5	212 10.6	96 4.8	34 1.7	10 0.5	57 2.9
強毒性新型インフルエンザ大流行時	2000 100.0	91 4.6	179 9.0	321 16.1	400 20.0	443 22.2	184 9.2	157 7.9	132 6.6	31 1.6	62 3.1

【設問】

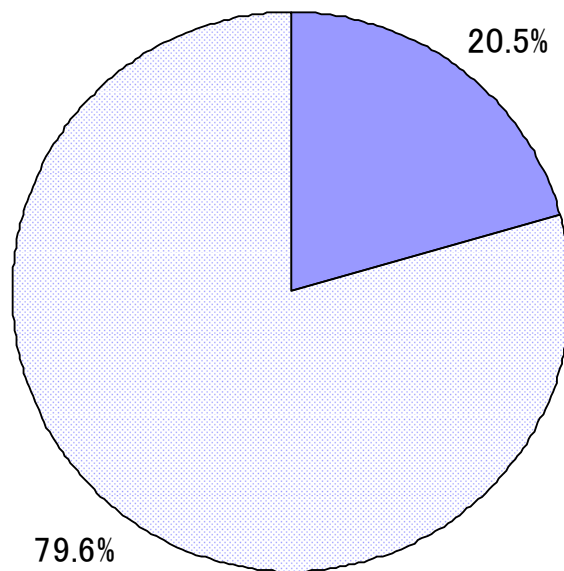
■ Q 1 4 どの通勤手段に変更したいですか。(ひとつだけ)

【対象】 Q 1 2 「通勤手段を自動車や自転車などに変更したい」を選択した回答者 (n=409)

【結果】

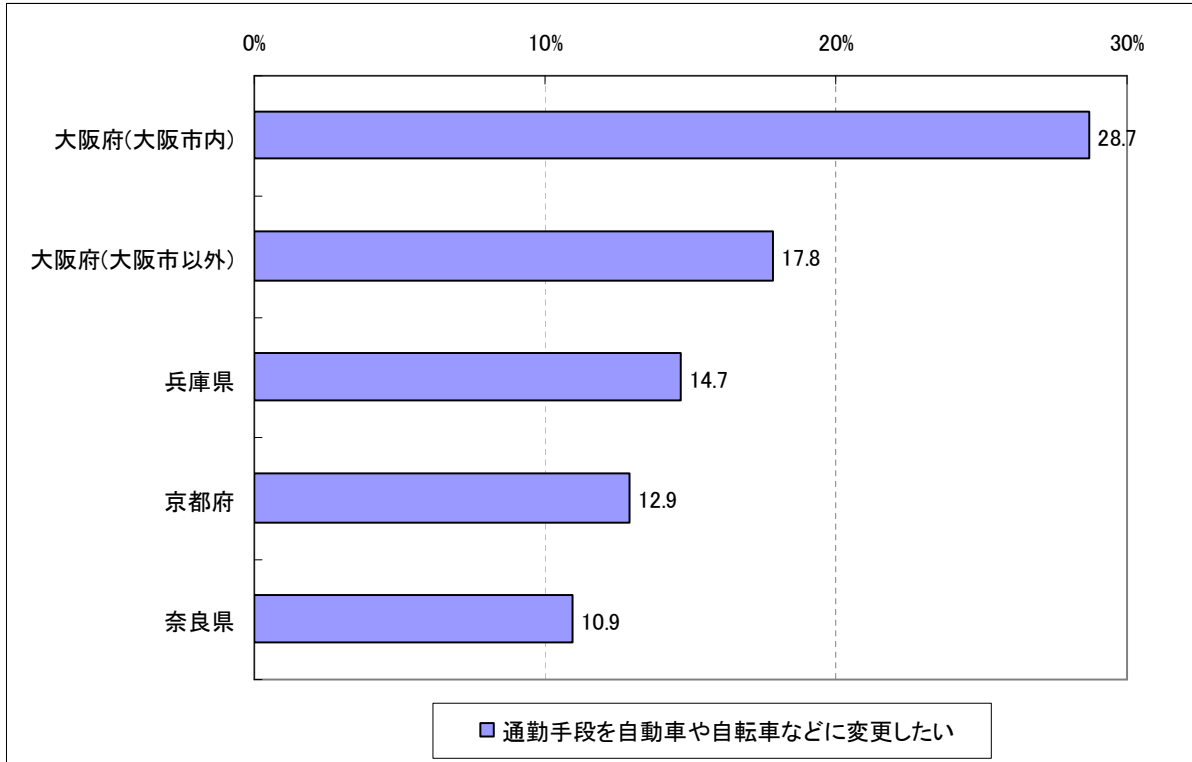
- ・ 強毒性新型インフルエンザ発生時に「通勤手段を自動車や自転車などに変更したい」と回答した人は全体の 21%。(Q 1 2)
- ・ 居住地域別では、大阪市内に居住している人は他地域よりも通勤手段を変更したいとする割合が 29%と高く、次いで、大阪市以外の大阪府 (18%)、兵庫県 (15%) となっている。ただし、サンプル数の非常に少ない滋賀県・和歌山県・三重県は除く。
- ・ 変更後の通勤手段として最も多いのは自家用車 (40%)、次いで自転車 (34%) が多い。

図 26 通勤手段を変更したい人の割合 (Q12、全回答者)



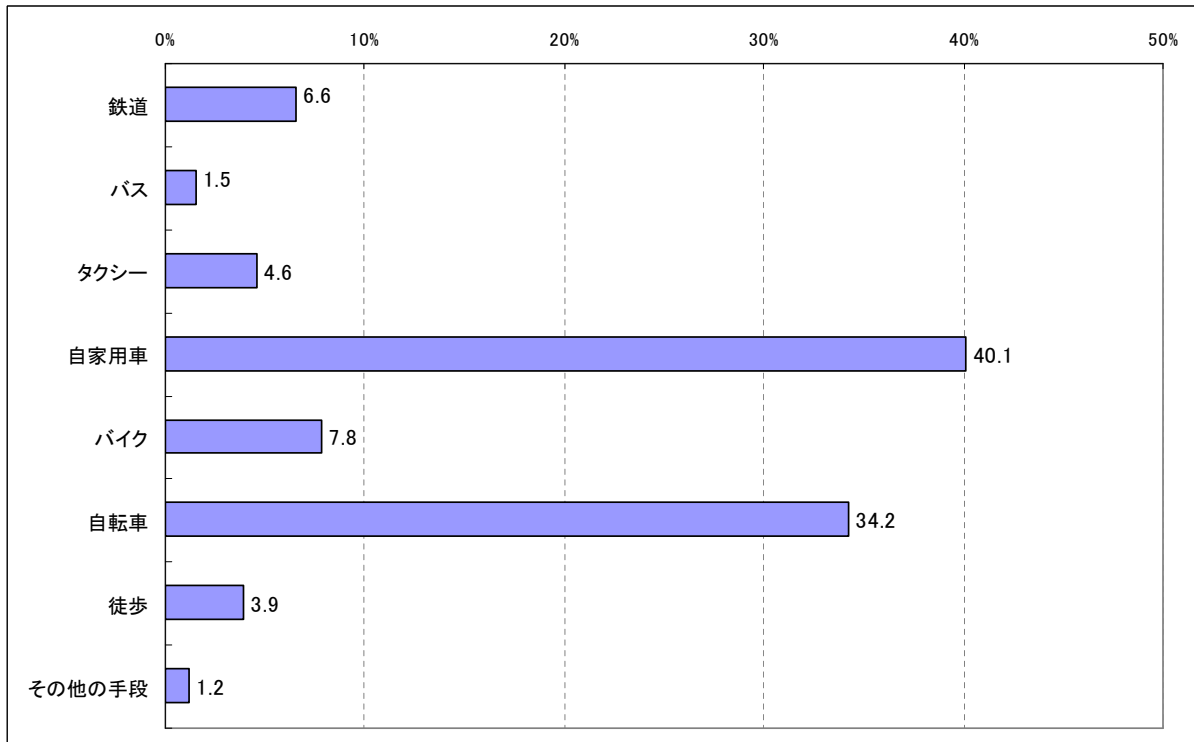
■ 通勤手段を自動車や自転車などに変更したい □ 通勤手段を自動車や自転車などに変更したいとは思わない

図 27 居住地域別、通勤手段を変更したい人の割合



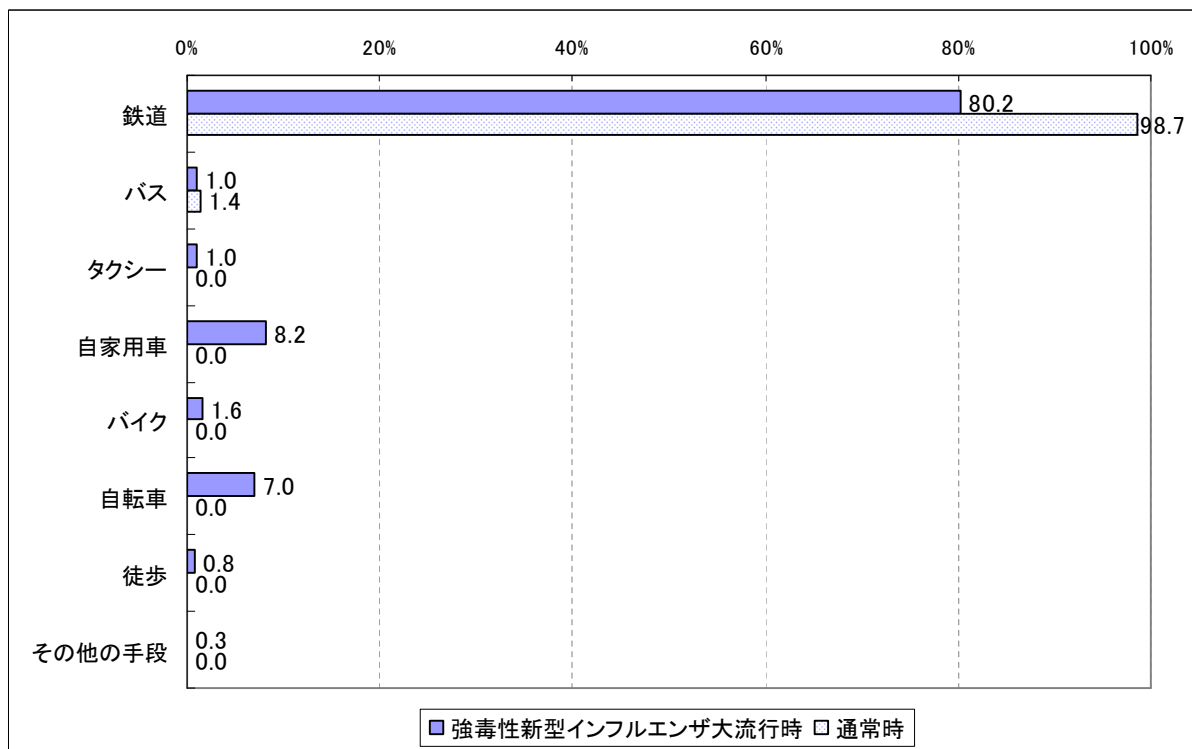
	調査数	転通車勤 な手段 にを 変自 更動 し車 たや い自	と転通 は車勤 思な手 わど段 なにを い変自 更動 し車 たや い自
全体	2000	409	1591
	100.0	20.5	79.6
大阪府(大阪市内)	669	192	477
	100.0	28.7	71.3
大阪府(大阪市内以外)	881	157	724
	100.0	17.8	82.2
兵庫県	232	34	198
	100.0	14.7	85.3
京都府	62	8	54
	100.0	12.9	87.1
奈良県	128	14	114
	100.0	10.9	89.1

図 28 変更後の通勤手段（通勤手段を変更したい回答者のみ）



調査数	鉄道	バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩	その他の手段
409	27	6	19	164	32	140	16	5
100.0	6.6	1.5	4.6	40.1	7.8	34.2	3.9	1.2

図 29 強毒性新型インフルエンザ大流行時と通常時の通勤手段の分布（全回答者）



	調査数	鉄道	バス	タクシー	自家用車	バイク	自転車	徒歩	その他の手段
通常時	2000	1973	27	0	0	0	0	0	0
	100.0	98.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
強毒性新型インフルエンザ大流行時	2000	1604	20	19	164	32	140	16	5
	100.0	80.2	1.0	1.0	8.2	1.6	7.0	0.8	0.3

【設問】

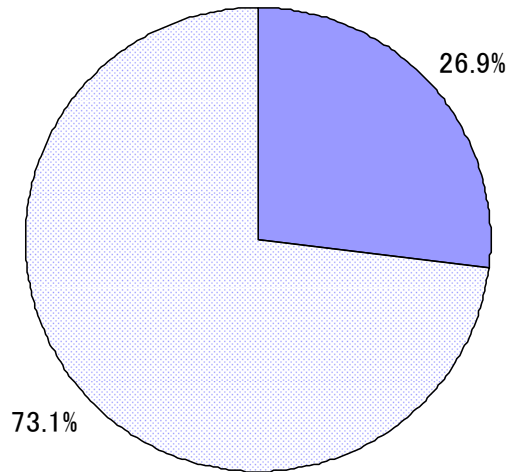
■ Q 1 5 どのように出勤を控えたいですか。(ひとつだけ)

【対象】 Q 1 2 「出勤を控えたい」を選択した回答者 (n=538)

【結果】

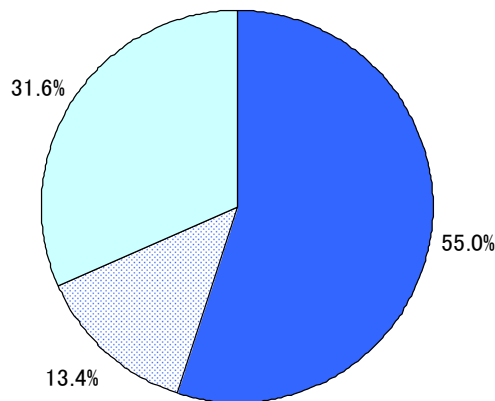
- ・ 強毒性新型インフルエンザ発生時に「出勤を控えたい」と回答した人は全体の 27%。(Q 1 2)
- ・ 出勤を控えた場合の対応として、最も多いのは「自宅等での勤務(テレワーク)」(55%)、次いで「自宅等での待機(仕事はしない)」(32%)。

図 30 出勤を控えたい人の割合 (Q12、全回答者)



■ 出勤を控えたい(自宅等での勤務、休暇等) □ 出勤を控えたいとは思わない

図 31 強毒性新型インフルエンザ発生時に出勤を控える場合の対応 (通勤を控えたいと回答した回答者のみ)



■ 自宅等での勤務(テレワーク) □ 自宅等での勤務(テレワーク以外)
 □ 自宅等での待機(仕事はしない)

調査数	自宅等での勤務(テレワーク)	自宅等での勤務(テレワーク以外)	自宅等での待機(仕事はしない)
538	296	72	170
100.0	55.0	13.4	31.6

【設問】

■ Q 1 6 出勤時間や通勤手段の変更、勤務先やその周辺での宿泊、自宅等での勤務等を行う場合、勤務先からの指示や勧めが必要ですか。(ひとつだけ)

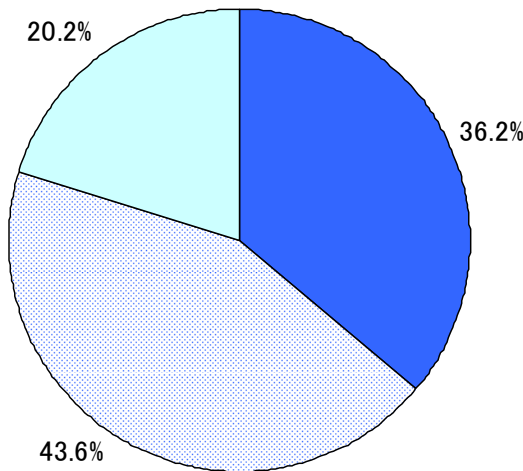
【対象】 Q 1 2 「出勤する時間を変更したい」・「通勤手段を自動車や自転車などに変更したい」・「勤務先やその周辺に宿泊したい」・「出勤を控えたい」のいずれかを選択した回答者 (n=1342)

【結果】

・「勤務先からの指示や勧めがなくても自主的に判断する」人は 20%にとどまり、80%の人が勤務先からの指示や勧めが必要と考えている。なお、「勤務先がBCP等を定めているか不明だが、指示や勧めは必要」との回答が44%、「勤務先がBCP等を定めているので、それにしたがって行動する」との回答が36%となった。

・また、新型インフルエンザ A/H1N1 時に「勤務先からの指示や勧めがなくても自主的に判断した」と回答した人 (Q 5) でも、「勤務先がBCP等を定めているか不明だが、指示や勧めは必要 (40%)」、「勤務先がBCP等を定めているので、それにしたがって行動する (22%)」との回答を合わせて過半数に達している。

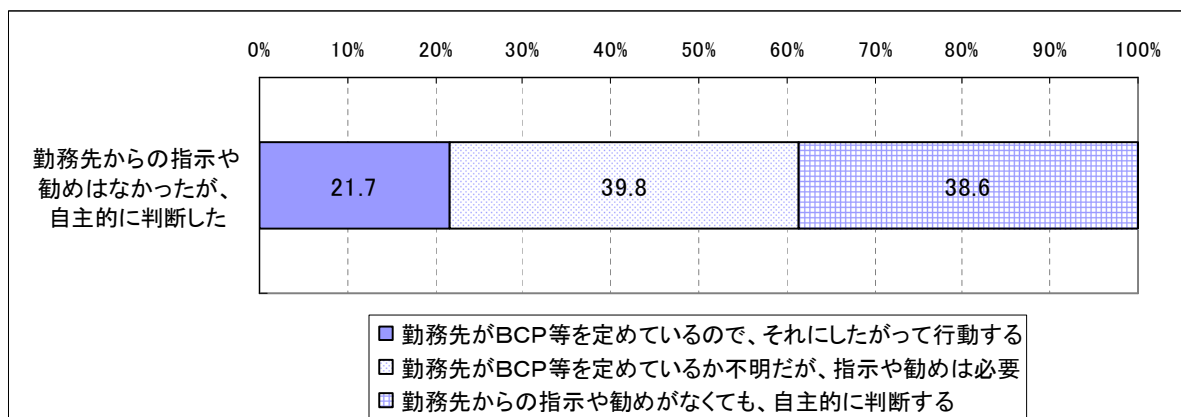
図 32 強毒性新型インフルエンザ大流行時の勤務先の指示等の必要性



調査数	しめ勤 たて務 がい先 つるが てのB 行で、C 動、P すそ等 るれを に定	指め勤 示て務 やい先 勧めが めかB は不C 必明P 要だ等 が、を 定	にめ勤 判が先 断な先 すくから るても の指 自主 的勧
1342	486	585	271
100.0	36.2	43.6	20.2

- 勤務先がBCP等を定めているので、それにしたがって行動する
- 勤務先がBCP等を定めているか不明だが、指示や勧めは必要
- 勤務先からの指示や勧めがなくても、自主的に判断する

図 33 強毒性新型インフルエンザ大流行時の勤務先の指示等の必要性
 (全体・インフルエンザ A/H1N1 発生時の勤務先の指示等の有無 (Q5) 別)



	調査数	しめ勤 たて務 が先 つるが てのB 行で、C 動すそ るれを に定	指め勤 示て務 や先 勧めが めかB は不C 必明P 要だ等 が、定	にめ勤 判が先 断な すく るも、 指示 自主 的勧
全 体	435 100.0	164 37.7	165 37.9	106 24.4
勤務先からの指示や勧めがあつた	269 100.0	128 47.6	99 36.8	42 15.6
勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断した	166 100.0	36 21.7	66 39.8	64 38.6

【設問】

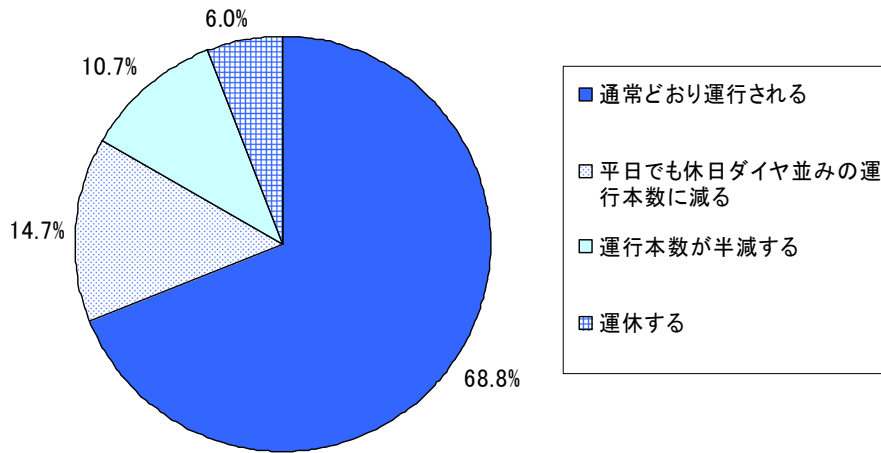
■ Q 1 7 もし、強毒性の新型インフルエンザが流行した場合、鉄道・バスの運行にどのような影響が出るとお考えですか。（ひとつだけ）

【対象】 全員（n=2000）

【結果】

・「通常通り運行される」と思っている人が 69%であり、鉄道・バスの運行に影響が出ると思っている人は合わせて 31%であった。

図 34 強毒性新型インフルエンザ大流行時の公共交通機関への影響の認識



【設問】

■ Q 1 8 公共交通機関で、強毒性の新型インフルエンザの感染を防ぐためには、社会全体としてどのような取り組みが必要だと思いますか。必要だと思うものを全てお答えください。(複数選択可)

【対象】 全員 (n=2000)

【結果】

・公共交通機関で、強毒性新型インフルエンザの感染を防ぐために必要だと考えている取り組みで多いものは、「手洗い・うがいをする」が76%、「咳エチケットを守る」が75%、「乗車中のマスクの着用」が72%であった。

・また、通勤混雑の低減につながる取り組みについては、「出勤を控える」35%、「大幅な時差通勤を行なう」32%、「乗車中、対人距離を確保する(1~2m)」24%、「通勤手段を自転車や自動車に変更する」17%であった。

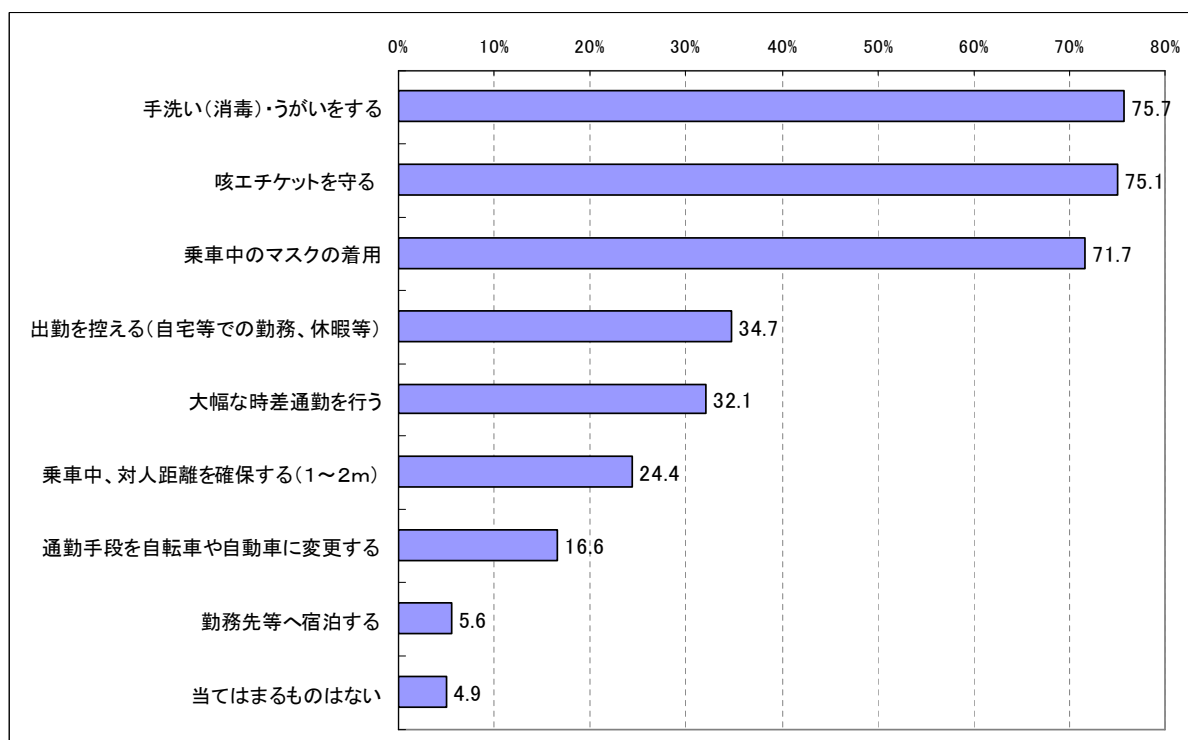
・なお、Q18の「社会全体」として必要と思う取り組みに対しては、「出勤を控える」35%が「大幅な時差通勤を行う」32%を上回り、Q12「個人」が通勤混雑を避けるために実施したい行動として「出勤する時間を変更したい」53%、「出勤を控えたい」34%と回答と順位が逆転している。この要因は、

—Q12では「出勤する時間を変更したい」と回答した「個人」の想定している出勤時間の変更幅は1時間前後が多く、「大幅」とは言いがたいこと

—また、個人では出勤せざるをえないと思う一方で、社会全体で感染拡大防止に取り組むためには出勤を控えるしかないと考え人が多いこと

等が考えられる。

図 35 公共交通機関での感染防止のために必要な社会の取組



調査数	手を洗う(消毒)・うがい	咳エチケットを守る	乗車中のマスクの着用	出勤を控える(自宅等)	大幅な時差通勤を行う	乗車中、対人距離を確保する(1~2m)	通勤手段を自転車や自動車に変更する	勤務先等へ宿泊する	当てはまるものはない
2000	1514	1502	1434	693	641	487	332	112	97
100.0	75.7	75.1	71.7	34.7	32.1	24.4	16.6	5.6	4.9

■ Q 1 9 あなたを含めて同居しているご家族の人数をお答えください。(ひとつだけ)

【対象】 全員 (n=2000)

■ Q 2 0 新型インフルエンザが大流行した場合、都市部では感染のおそれが高いため、地方の実家等へ一時的に移動・転居し、避難することも考えられます。もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから流行するとわかった場合、あなたや家族は一時的に移動・転居しますか。

【対象】 全員 (n=2000)

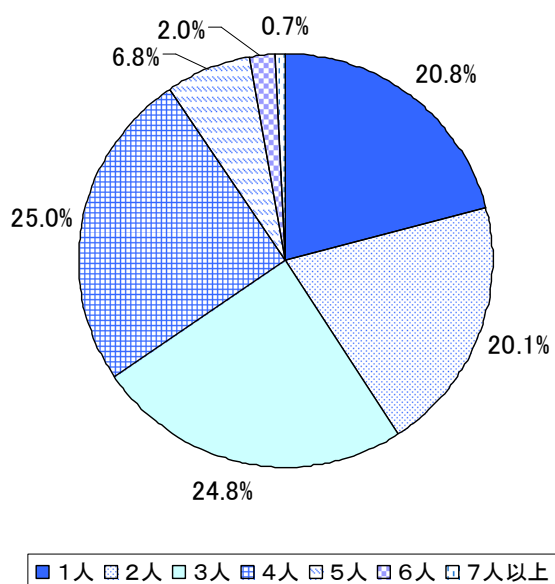
■ Q 2 1 移動・転居する(させる)場合、あなたを含めた、移動・転居する人数をお答えください。(ひとつだけ)

【対象】 Q 2 0で「移動・転居する」を選択した回答者 (n=214)

■ Q 2 2 移動・転居する(させる)のはだれですか。該当する人を全てお答えください。(複数選択可)

【対象】 Q 2 0で「移動・転居する」を選択した回答者 (n=214)

図 36 同居家族の人数



調査数	1人	2人	3人
2000	416	401	495
100.0	20.8	20.1	24.8
4人	5人	6人	7人以上
500	135	39	14
25.0	6.8	2.0	0.7

図 37 強毒性新型インフルエンザ大流行時に移動・転居する家族の人数

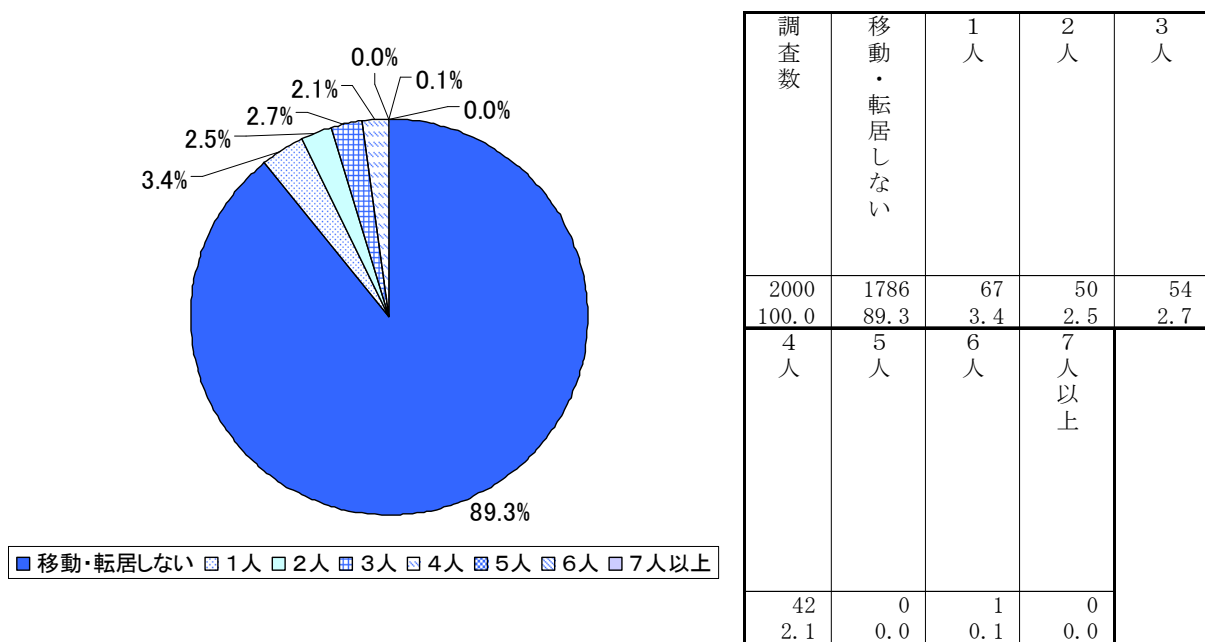
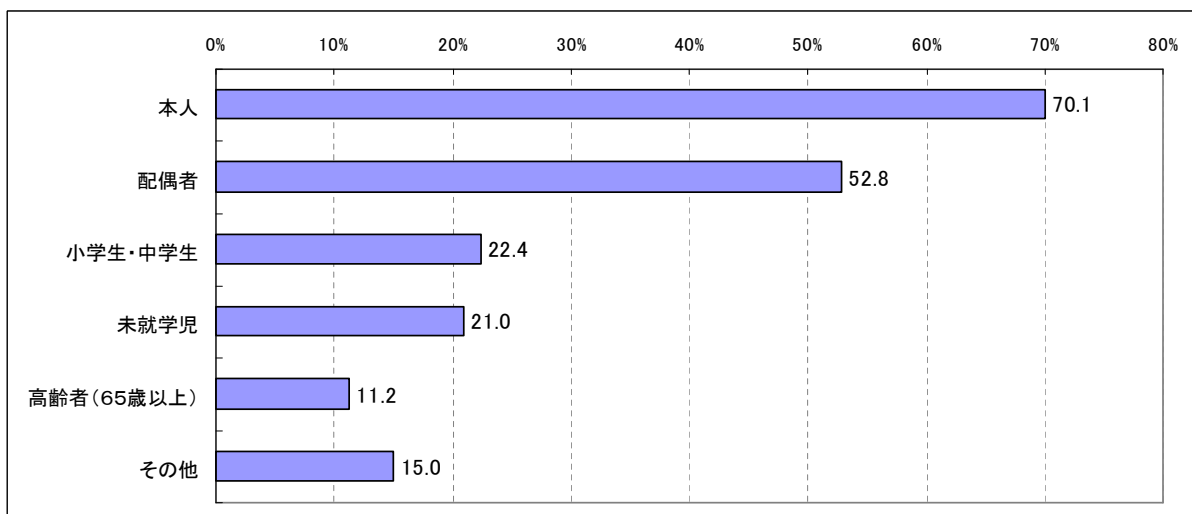


図 38 強毒性新型インフルエンザ大流行時に移動・転居する家族の属性



調査数	本人	配偶者	小学生・中学生	未就学児	高齢者(65歳以上)	その他
214	150	113	48	45	24	32
100.0	70.1	52.8	22.4	21.0	11.2	15.0

3. 参考資料 インターネット調査画面イメージ

※画面上の分岐条件式について、凡例を以下に示す。

【凡例】

- $(Q1 \text{ or } 1,2)$ → 「Q1 で 1 または 2 を選択した」場合
- $(Q1 \text{ andnot } 1, 2)$ → 「Q1 で 1,2 のうち選択していないものがある」場合
- $(Q1 \text{ or } 1) \text{ OR } (Q2 \text{ or } 1)$ → 「Q1 で 1 を選択した」または「Q2 で 1 を選択した」場合
- $(Q1 \text{ ornot } 1) \text{ AND } (Q2 \text{ ornot } 1)$ → 「Q1 で 1 を選択していない」かつ「Q2 で 1 を選択していない」場合

通勤時における新型インフルエンザ対策に関するアンケート調査

アンケートページにアクセスいただきまして、ありがとうございます。

今回のアンケートは、「**通勤時における新型インフルエンザ対策に関するアンケート調査**」です。

下記の【注意事項】をご確認、ご同意のうえ、以下の「同意し、アンケート開始」ボタンをクリックしていただき、アンケートにご回答くださいますようお願いいたします。

「同意し、アンケート開始」ボタンをクリックするとアンケート画面が別ウィンドウで表示されます。

ご同意いただけない場合は右下の「閉じる」ボタンをクリックし、アンケート画面を閉じてください。

【注意事項】

- ・当社は会員の個人情報を個人情報保護方針に基づいて取り扱います。
- ・複数のアンケート画面を同時に開きますと、正常に回答できず、ポイント付与の対象になりません。同時に複数のアンケートにご回答なさないようご注意ください。

同意し、アンケート開始

改ページ

以下の囲いの中の説明を読んで問いにお答えください。

新型インフルエンザの感染防止策として、職場や個人でできる具体的な対策に次のようなものがあります。

(1) 対人距離の保持

咳やくしゃみの「しぶき」は1～2メートルで落下します。マスクをせずに咳やくしゃみをしている人には近寄らないようにします。

(2) 手洗い・手の消毒

不特定多数の人が触るような場所に触れた後は、手洗いや手の消毒をします。

(3) 咳エチケット

咳やくしゃみがでる時は、マスクをします。マスクがない時は、ティッシュなどで口と鼻を被い、まわりの人から顔をそむけてします。

(4) 職場の清掃・消毒

通常の清掃に加えて、消毒用アルコールを使って、ドアノブ、スイッチ、机、エレベーターのボタン等、特に人がよく触れるところを拭き取り清掃します。

(5) 新型インフルエンザワクチンの接種

Q1 あなたが、上記の囲いの内容を読んで、初めて知った、または、初めて理解したと思う感染防止策をすべてお答えください
【必須】 (複数選択可)

- (1) 対人距離の保持
- (2) 手洗い・手の消毒
- (3) 咳エチケット
- (4) 職場の清掃・消毒
- (5) 新型インフルエンザワクチンの接種
- すべて知っている(排他)

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q1 andnot 1, 2, 3, 4, 5)

Q2 あなたは、新型インフルエンザの感染防止策について、何を通じて知りましたか。(複数選択可)
【必須】

- 1. テレビ
- 2. 新聞
- 3. 雑誌、書籍
- 4. インターネット
- 5. 会社からの情報
- 6. 子供からの情報(学校からの情報)
- 7. 地域の回覧や掲示
- 8. 行政機関の広報
- 9. その他

次へ

改ページ

Q3 今年の5月に新型インフルエンザの発生が報じられた当初、通勤で公共交通機関を利用する時、あなたが感染防止のため行なったことをお答えください。(各項目について「あり」「なし」を選択)。
【必須】

		あり	なし
1.乗車中のマスクの着用	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2.マスクの外出時常時着用	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3.勤務先での手洗い(消毒)やうがい	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4.乗車前に、少しでも空いている車両をさがして乗車した	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5.混雑を避けたことがあった			

(通勤の時間帯や手段の変更、勤務先等への宿泊)	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6.出勤を控えた日があった (自宅等での勤務、休暇等)	⇒	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q3_5 or 1)

Q4 **【必須】** あなたは、通勤時の公共交通機関の混雑を避けるためにどのようなことを行いましたか。該当するものを全てお答えください。(複数選択可)

- 1. 出勤する時間を変更した
- 2. 帰宅する時間を変更した
- 3. 通勤手段を自動車や自転車などに変更した
- 4. 勤務先やその周辺に宿泊したことがあった
- 5. 当てはまるものはない(排他)

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q3_5 or 1) OR (Q3_6 or 1)

Q5 **【必須】** 感染防止対策について、勤め先から指示や勧めはありましたか。(ひとつだけ)

- 1. 勤務先からの指示や勧めがあった
- 2. 勤務先からの指示や勧めはなかったが、自主的に判断した

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q3_5 or not 1) AND (Q3_6 or not 1)

Q6 **【必須】** あなたは、新型インフルエンザが発生してから通勤時の混雑についてどのように感じていましたか。(ひとつだけ)

- 1. 混雑を避けたいと思った

- 2. 混雑していても、気にしなかった
- 3. あまり混雑していないので、気にしなかった
- 4. その他

次へ

改ページ

Q7 鉄道・バスの車内や駅等において、新型インフルエンザの感染防止策について放送や掲示を行っていましたが、あなたは【必須】気づきましたか。(ひとつだけ)

- 1. 気づいた
- 2. 気づかなかった

次へ

改ページ

Q8 鉄道・バスの車内や駅等において、新型インフルエンザの感染防止策を呼びかけたり、周知したりすることは、今後も必要【必須】と思いますか。(ひとつだけ)

- 1. 必要と思う
- 2. 必要とは思わない

次へ

改ページ

Q9 本年5月頃の関西地区での新型インフルエンザ対応(個人の対応、企業の対応、学校の対応、報道のされ方等)について、【必須】全般的にどう思いますか。(ひとつだけ)

- 1. 過剰な反応だったと思う
- 2. 新型インフルエンザの脅威がどの程度のものかわからなかったのだから、過剰な反応だったとは思わない
- 3. どちらとも言えない

次へ

改ページ

以下の囲いの中の説明を読んで問いにお答えください。

<強毒性の新型インフルエンザについて>

本年5月に国内で患者が確認され、現在流行が拡大しているのは呼吸器感染が中心の豚由来の新型インフルエンザ(A/H1N1)です。

しかしながら、感染力が強く致死率が非常に高くなることが危惧されている強毒性の鳥由来の新型インフルエンザ(H5N1)が発生する可能性は依然として存在します。

Q10 上記の囲いの内容について、知っていましたか。(ひとつだけ)

【必須】

- 1. 知らなかった
- 2. あまり知らなかった
- 3. 知っている

次へ

改ページ

Q11 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をどのように考えますか。(ひとつだけ)

【必須】

- 1. 混雑を避けたい
- 2. 混雑していても、気にならない
- 3. あまり混雑していないので、気にならない
- 4. その他

次へ

改ページ

Q12 もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから大流行するとわかった場合、あなたは通勤時の混雑をさけるため、どのようなことを行いたいですか。該当するものを全てお答えください。(複数選択可)

【必須】

- 1. 出勤する時間を変更したい
- 2. 通勤手段を自動車や自転車などに変更したい
- 3. 勤務先やその周辺に宿泊したい
- 4. 出勤を控えたい(自宅等での勤務、休暇等)
- 5. 当てはまるものはない(排他)

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q12 or 1)

Q13 何時頃に勤め先に到着するようにしたいですか。(ひとつだけ)

【必須】

- 1. 6時59分以前
- 2. 7時00分 ~ 7時29分
- 3. 7時30分 ~ 7時59分
- 4. 8時00分 ~ 8時29分
- 5. 8時30分 ~ 8時59分
- 6. 9時00分 ~ 9時29分
- 7. 9時30分 ~ 9時59分
- 8. 10時00分 ~ 10時29分
- 9. 10時30分 ~ 10時59分
- 10. 11時00分以降

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q12 or 2)

Q14 どの通勤手段に変更したいですか。(ひとつだけ)
【必須】

- 1. 鉄道
- 2. バス
- 3. タクシー
- 4. 自家用車
- 5. バイク
- 6. 自転車
- 7. 徒歩
- 8. その他の手段

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q12 or 4)

Q15 どのように出勤を控えたいですか。(ひとつだけ)

【必須】

※IT(情報通信技術)を活用した場所や時間にとらわれない働き方を「テレワーク」といいます

- 1. 自宅等での勤務(テレワーク)
- 2. 自宅等での勤務(テレワーク以外)
- 3. 自宅等での待機(仕事はしない)

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q12 or 1, 2, 3, 4)

Q16 出勤時間や通勤手段の変更、勤務先やその周辺での宿泊、自宅等での勤務等を行う場合、勤務先からの指示や勧めが【必須】 必要ですか。(ひとつだけ)

- 1. 勤務先がBCP(事業継続計画)等を定めているので、それに従って行動する
- 2. 勤務先がBCP(事業継続計画)等を定めているかどうか分からないが、勤務先の指示や勧めは必要である
- 3. 勤務先からの指示や勧めがなくても、自主的に判断する

次へ

改ページ

Q17 もし、強毒性の新型インフルエンザが流行した場合、鉄道・バスの運行にどのような影響が出るとお考えですか。(ひとつだけ)【必須】

- 1. 通常どおり運行される
- 2. 平日でも休日ダイヤ並みの運行本数に減る
- 3. 運行本数が半減する
- 4. 運休する

次へ

改ページ

Q18 公共交通機関で、強毒性の新型インフルエンザの感染を防ぐためには、社会全体としてどのような取り組みが必要とお考えですか。必要だと思うものを全てお答えください。(複数選択可)【必須】

- 1. 乗車中のマスクの着用
- 2. 咳エチケットを守る
- 3. 乗車中、対人距離を確保する(1~2m)
- 4. 手洗い(消毒)・うがいをする
- 5. 大幅な時差通勤を行う
- 6. 通勤手段を自転車や自動車に変更する
- 7. 勤務先等へ宿泊する
- 8. 出勤を控える(自宅等での勤務、休暇等)
- 9. 当てはまるものはない(排他)

次へ

Q19 あなたを含めて同居しているご家族の人数をお答えください。(ひとつだけ)
【必須】

- 1. 1人
- 2. 2人
- 3. 3人
- 4. 4人
- 5. 5人
- 6. 6人
- 7. 7人以上

次へ

Q20 新型インフルエンザが大流行した場合、都市部では感染のおそれが高いため、地方の実家等へ一時的に移動・転居し、避難することも考えられます。もし、強毒性の新型インフルエンザがこれから流行するとわかった場合、あなたや家族は一時的に移動・転居しますか。
【必須】

- 1. はい
- 2. いいえ

次へ

分岐条件

分岐条件式 : (Q20 or 1)

選択肢表示ロジック設定

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...

対象選択肢 : 1人

表示選択肢 : 1人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...

対象選択肢 : 2人

表示選択肢 : 1人、2人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...

対象選択肢 : 3人

表示選択肢 : 1人、2人、3人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...

対象選択肢 : 4人

表示選択肢 : 1人、2人、3人、4人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...
対象選択肢 : 5人
表示選択肢 : 1人、2人、3人、4人、5人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...
対象選択肢 : 6人
表示選択肢 : 1人、2人、3人、4人、5人、6人

対象質問 : Q19.あなたを含めて同居しているご家族の人...
対象選択肢 : 7人以上
表示選択肢 : 1人、2人、3人、4人、5人、6人、7人以上

Q21 移動・転居する(させる)場合、あなたを含めた、移動・転居する人数をお答えください。(ひとつだけ)
【必須】

- 1. 1人(表示ロジック選択肢)
- 2. 2人(表示ロジック選択肢)
- 3. 3人(表示ロジック選択肢)
- 4. 4人(表示ロジック選択肢)
- 5. 5人(表示ロジック選択肢)
- 6. 6人(表示ロジック選択肢)
- 7. 7人以上(表示ロジック選択肢)

次へ

改ページ

分岐条件

分岐条件式 : (Q20 or 1)

Q22 移動・転居する(させる)のはだれですか。該当する人を全てお答えください。(複数選択可)
【必須】

- 1. 本人
- 2. 配偶者
- 3. 未就学児
- 4. 小学生・中学生
- 5. 高齢者(65歳以上)
- 6. その他

次へ

改ページ